

科目名	地域創成ケアシステム論		
科目コード	M1101	科目ナンバリング	
授業形態	講義	開講時期	1年前期
必修・選択	必修		
単位数	2単位	時間数	30時間
先修条件			
教員名	榊原 久孝・大谷 恵・野村 千文・増永 悦子・馬場 美穂・張本 浩平		
実務経験	精神科病院の看護師（大谷）、総合病院の看護師（野村）、大学病院の看護師（増永）、訪問看護ステーションの看護師（馬場）、訪問リハビリの理学療法士（張本）としての実務経験から地域連携や地域創成ケアシステムのあり方について導く。		
オフィスアワー	授業後30分間		
科目概要	団塊世代が75歳以上になる2025年以降の高齢社会に向けて、急性期から回復期、在宅医療に至るまで、地域全体で切れ目なく必要な医療や介護が提供される「地域完結型医療」（地域包括ケアシステム）が目されている。地域包括ケアシステム構築に向けた、保健医療行政の動向とともに、地域の病院や地域在宅の連携システムの現状と今後の方向性について学ぶ。		
到達目標	地域包括ケアシステムの概要を学び、関連する保健医療介護の多職種連携における地域での役割や地域連携のあり方を実践例を通して考える。		
学位授与方針			対応
人間としての尊厳と権利を尊重した倫理観に基づき、看護学の幅広い知識と科学的根拠に裏付けされた看護を実践する能力を有する			
保健医療チームの一員として多職種と連携・協働し、リーダーシップを発揮する能力を有する			
ヘルスケアシステムの変革に対応し、組織を管理運営できるマネジメント能力を有する			
地域や臨床現場が抱える、多様な看護実践上の課題解決に向けた研究能力を有する			
看護専門職を育てる教育的志向を有し、看護学の発展に寄与できる教育能力を有する			
授業計画 (回数)	該当する到達目標	内容・事前/事後学習	担当者
1		高齢社会の進展と地域包括ケアシステム	榊原
2		保健医療福祉と地域包括ケアシステム	榊原
3		医療機関と地域包括ケアシステム	榊原
4		在宅看護と地域包括ケアシステム	馬場
5		在宅リハビリテーションと地域包括ケアシステム	張本
6		地域創成ケアシステムと療養生活支援看護	増永
7		地域創成ケアシステムと高齢者看護	野村
8		地域創成ケアシステムと精神看護	大谷
9		地域創成ケアシステムの現状と課題（事例検討の発表・討議）	榊原・大谷・野村・増永
10		地域創成ケアシステムの現状と課題（事例検討の発表・討議）	榊原・大谷・野村・増永
11		地域創成ケアシステムの現状と課題（事例検討の発表・討議）	榊原・大谷・野村・増永
12		地域創成ケアシステムの現状と課題（事例検討の発表・討議）	榊原・大谷・野村・増永
13		地域創成ケアシステムの今後（事例検討まとめの発表・討議）	榊原・大谷・野村・増永
14		地域創成ケアシステムの今後（事例検討まとめの発表・討議）	榊原・大谷・野村・増永
事前・事後学修	講義内容・配布資料等を通して、地域創成ケアシステムのあり方について、考察を深める		
評価方法	授業参加状況(70%)、課題レポート(30%)		

課題に対する フィードバック	
教科書	指定しない。
参考書	必要に応じて、担当教員が提示する。
履修上の注意点 及び取扱い	受講者の医療機関の現状をもとに討議・検討する。授業（発表・討議）への積極的な参加を求める。

科目名	看護研究法		
科目コード	M1102	科目ナンバリング	
授業形態	講義	開講時期	1年前期
必修・選択	必修		
単位数	2単位	時間数	30時間
先修条件			
教員名	安藤 詳子・榊原 久孝		
実務経験	総合病院での看護師経験（安藤）、産業医経験（榊原）から、臨床で実践できる研究法を指導する。		
オフィスアワー	授業後30分間		
科目概要	看護研究に関する理論と実際について理解し、量的研究と質的研究の基本を学習して、自ら研究課題を発見できるように“知と技のプロフェッショナル”として、看護研究に取り組む際に必要な基礎的理解を深める。また、論文クリティークにより、研究結果・内容を正しく評価できる能力を養う。		
到達目標	<p>看護研究の特徴と意義について述べることができる。</p> <p>看護研究における倫理的課題を理解し、研究遂行上の配慮を実行できる。</p> <p>看護研究を導く理論や量的・質的な分析方法の基本を学び、研究課題の発見に繋げることができる。</p> <p>文献クリティークを通して、医療現場における問題点や課題を見出し、適切な研究手法について考察できる。</p>		
学位授与方針			対応
人間としての尊厳と権利を尊重した倫理観に基づき、看護学の幅広い知識と科学的根拠に裏付けされた看護を実践する能力を有する			○
保健医療チームの一員として多職種と連携・協働し、リーダーシップを発揮する能力を有する			
ヘルスケアシステムの変革に対応し、組織を管理運営できるマネジメント能力を有する			
地域や臨床現場が抱える、多様な看護実践上の課題解決に向けた研究能力を有する			
看護専門職を育てる教育的志向を有し、看護学の発展に寄与できる教育能力を有する			
授業計画 (回数)	該当する到達目標	内容・事前/事後学習	担当者
1		看護研究の特徴と意義	安藤
2		看護研究における倫理的課題と配慮	安藤
3		量的研究とは 量的研究の種類と過程	榊原
4		量的研究の種類と過程	榊原
5		量的データの分析方法（統計的手法）	榊原
6		調査研究	安藤
7		看護介入研究	安藤
8		量的研究論文のクリティークの視点	榊原
9		質的研究とは 質的研究の過程	安藤
10		質的研究の種類と分析方法 (GTA、現象学、エスノグラフィー等)	安藤
11		質的研究の種類と分析方法 (GTA、現象学、エスノグラフィー等)	安藤
12		質的研究の種類と分析方法 (GTA、現象学、エスノグラフィー等)	安藤
13		事例研究	安藤
14		質的研究論文のクリティークの視点	安藤
事前・事後学修	事前：単元の割り当てられた課題についてレポートを用意してプレゼンする。 事後：プレゼンについてディスカッションした内容をまとめ提出する。 配布資料、参考書等を予習・復習をして理解を深める。		
評価方法	・発表内容(40%)，課題レポート(40%)，講義への参加度(20%)で評価する。		

課題に対する フィードバック	
教科書	・指定しない。
参考書	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 豊田修一、星山佳治、宮崎有紀子著「看護師・保健師をめざす人のやさしい統計処理 保健・医療データの活用」実教出版、2020年</li> <li>2. 新谷歩著「みんなの医療統計 12日間で基礎理論とEZRを完全マスター！」講談社、2016年</li> <li>3. 黒田裕子：黒田裕子の 看護研究 Step by Step 第5版.医学書院.2017</li> <li>4. 川本利恵子,他：「尺度」を使った看護研究のキホンとコツ.日本看護協会出版会.2016</li> <li>5. 木下康仁：定本 M-GTA :実践の理論化をめざす質的研究方法論.医学書院.2020</li> <li>6. 有馬明恵：内容分析の方法〔第2版〕.ナカニシヤ出版.2021</li> <li>7. 松葉祥一、西村ユミ：現象学的看護研究 理論と分析の実際.医学書院.2014</li> <li>8. 波平恵美子：質的研究 Step by Step 第2版.医学書院.2016</li> <li>9. 若村智子、西村舞琴：はじめて学ぶ文献レビュー.総合医学社.2020</li> <li>10. 牧本清子,他：よくわかる看護研究論文のクリティーク 第2版.日本看護協会出版会.2020</li> </ol> <p>* 上記以外も、講義時に適宜、紹介する。</p>
履修上の注意点 及び取扱い	・主体的かつ積極的に学習を進めることを期待する。

科目名	看護研究法		
科目コード	M1103	科目ナンバリング	
授業形態	講義	開講時期	1年前期
必修・選択	必修		
単位数	2単位	時間数	30時間
先修条件			
教員名	石井 成郎・増永 悦子・肥田 武		
実務経験	看護師として病院勤務（増永）の経験を活かし、より実践的な看護研究の指導を行う。		
オフィスアワー	毎回の授業後30分間（石井、増永、肥田）及びメール問い合わせは随時可能（石井：n.ishii.t@ikc.ac.jp）		
科目概要	最先端の知にアクセスする技術や研究のプロセスを推進するための実践的な研究能力の基礎を培う。具体的には、CiNii、Google Scholar、医中誌などの文献データベースの利用方法、EndNoteなどの文献管理アプリの利用方法、看護学の分野で主に用いられている量的および質的研究の手法とデータ分析方法、論文作成に必要な学術的文章の書き方や文献の引用方法、研究計画書の作成方法、研究成果の発表に必要なスライドの作成方法や質疑応答について、その基礎を体験的に学修する。		
到達目標	研究計画書作成のために必要な知識と技術を習得する。 学術論文作成・公表のために必要な知識と技術を習得する。		
学位授与方針			対応
人間としての尊厳と権利を尊重した倫理観に基づき、看護学の幅広い知識と科学的根拠に裏付けされた看護を実践する能力を有する			○
保健医療チームの一員として多職種と連携・協働し、リーダーシップを発揮する能力を有する			
ヘルスケアシステムの変革に対応し、組織を管理運営できるマネジメント能力を有する			
地域や臨床現場が抱える、多様な看護実践上の課題解決に向けた研究能力を有する			
看護専門職を育てる教育的志向を有し、看護学の発展に寄与できる教育能力を有する			
授業計画 (回数)	該当する到達目標	内容・事前/事後学習	担当者
1		文献検索、文献管理方法	石井
2		文献検索、文献管理方法	石井
3		量的データの分析の実際	石井
4		量的データの分析の実際	石井
5		量的データの分析の実際	石井
6		質的データの分析の実際	肥田・増永
7		質的データの分析の実際	肥田・増永
8		質的データの分析の実際	肥田・増永
9		質的データの分析の実際	肥田・増永
10		アカデミックライティングスキル	肥田
11		アカデミックライティングスキル	肥田
12		研究計画書作成の基本	増永
13		研究成果発表の基本	石井
14		研究成果発表の基本	石井
事前・事後学修	事前学習：配布されたプリント等を読み、基本的な用語等を理解する。 事後学習：授業内容を振り返り、課題を作成・提出する。		
評価方法	各回に設定された演習課題：100%		

課題に対する フィードバック	
教科書	必要に応じてプリント等を配布する。
参考書	必要に応じてプリント等を配布する。
履修上の注意点 及び取扱い	授業では毎回パソコンを使用しますので準備してください。

科目名	死生学		
科目コード	M1104	科目ナンバリング	
授業形態	講義	開講時期	1年後期
必修・選択	選択		
単位数	2単位	時間数	30時間
先修条件			
教員名	高橋 原・谷山 洋三・増永 悦子		
実務経験	高橋、谷山：東日本大震災後、東北大学を拠点に多様な宗教者らと連携・協働して、遺族を中心とする被災者の心のケア提供者を養成 谷山：病院の緩和ケア病棟（ビハラー病棟）でビハラー僧として勤務 増永：大学病院で看護師として勤務。臨床スピリチュアルケア師（一般社団法人日本スピリチュアルケア学会認定） *上記の実務経験(高橋、谷山、増永)を基に、履修者が関心領域における死をめぐる問題を提議し、死生観・看護観を探究できるように導く。		
オフィスアワー	授業後30分間		
科目概要	死生学とは、看護学を含む医療・保健領域に限定せず、宗教学、哲学、文学、芸術などの広範な領域で取り組まれてきた学際的学問である。本科目では、前述した学際的知見を基にして、看護で直面する「死」をテーマに、多様な社会・文化における「死」について比較検討し、「死」に関する理解を深める。さらに「生」すなわち「生きる」ことの意味とは何かを探究し、自己の死生観・看護観を基盤にして、今後の看護実践・教育・研究に活かすことを目指す。		
到達目標	死に関する研究の動向を把握できる。 多様な社会・文化における死のとりえ方について説明できる。 看取りにおける看護の在り方について探究できる。 関心領域における死の問題を考案する。 自己の死生観・看護観を探究する。		
学位授与方針			対応
人間としての尊厳と権利を尊重した倫理観に基づき、看護学の幅広い知識と科学的根拠に裏付けされた看護を実践する能力を有する			
保健医療チームの一員として多職種と連携・協働し、リーダーシップを発揮する能力を有する			
ヘルスケアシステムの変革に対応し、組織を管理運営できるマネジメント能力を有する			
地域や臨床現場が抱える、多様な看護実践上の課題解決に向けた研究能力を有する			
看護専門職を育てる教育的志向を有し、看護学の発展に寄与できる教育能力を有する			
授業計画 (回数)	該当する到達目標	内容・事前/事後学習	担当者
1		死生学とは何か 欧米と日本における死生学の発展と特徴	高橋
2		死生学とは何か 欧米と日本における死生学の発展と特徴	高橋
3		多様な社会・文化における「死」 グリーフケアと宗教文化	谷山
4		多様な社会・文化における「死」 医療・福祉と宗教の協働	谷山
5		多様な社会・文化における「死」 大災害時における死 - 宗教者の立場から	谷山
6		多様な社会・文化における「死」 医学・看護学における「死」	増永
7		死に関する研究の変遷と動向 - 看護学を中心に	増永
8		死に関する研究の変遷と動向 - 看護学を中心に	増永
9		死と看取りにおける自己の死、他者の死	増永
10		死と看取りにおける自己の死、他者の死	増永
11		死と看取りにおける看護のあり方	増永
12		死と看取りにおける看護のあり方	増永
13		関心領域における死をめぐる問題提議	増永

授業計画 (回数)	該当する到達目標	内容・事前/事後学習	担当者
14		関心領域における死をめぐる問題提議	増永
事前・事後学修		事前学習：教科書や資料・文献等を用いて講義のテーマを学習し講義に臨む。 事後学習：講義や講義内での発表、討論等を通して、「死」に対する考察を深め、関心領域における死をめぐる問題について、発表内容や課題レポートに反映させる。	
評価方法		発表時の発表内容（20%）、討議への参加状況（20%）、課題レポート（60%）	
課題に対するフィードバック			
教科書		・石丸昌彦『死生学入門』NHK出版，2014	
参考書		・谷山洋三『医療者と宗教者のためのスピリチュアルケア 臨床宗教師の視点から』中外医学社，2016/3/1 ・瀧口 俊子，大村 哲夫，和田 信（著，編集）共に生きるスピリチュアルケア：医療・看護から宗教まで，創元社，2021/11/17 *上記以外も、講義時に適宜、紹介する。	
履修上の注意点及び取扱い		講義に主体的に参加して課題に取り組む。	



科目名	看護理論		
科目コード	M1105	科目ナンバリング	
授業形態	講義	開講時期	1年後期
必修・選択	選択		
単位数	2単位	時間数	30時間
先修条件			
教員名	下平 唯子・野村 千文		
実務経験	総合病院での看護師経験（下平、野村）から、理論の臨床現場への応用や臨床現場の課題を理論を用いて解釈する力を導く。		
オフィスアワー	授業後30分間、及び随時メール対応可、 下平：y.shimodaira.t@ikc.ac.jp 野村：c.nomura.t@ikc.ac.jp		
科目概要	看護の諸理論と看護現象との関係について探求し、看護における“知と技のプロフェッショナル”として、看護研究・実践の理論的基盤を培う。 具体的には、看護学の理論体系の変遷を概観し、諸理論の構造と特徴を理解することを通して、看護実践・研究における批判的思考や応用可能性を検討する基盤を学ぶ。		
到達目標	近代看護における理論体系の変遷を説明することができる。 主要な看護理論の構造と特徴について説明できる。 看護実践のための看護理論と看護学の学問的基礎を培い、研究と実践に応用探求できる。		
学位授与方針			対応
人間としての尊厳と権利を尊重した倫理観に基づき、看護学の幅広い知識と科学的根拠に裏付けされた看護を実践する能力を有する			
保健医療チームの一員として多職種と連携・協働し、リーダーシップを発揮する能力を有する			
ヘルスケアシステムの変革に対応し、組織を管理運営できるマネジメント能力を有する			
地域や臨床現場が抱える、多様な看護実践上の課題解決に向けた研究能力を有する			○
看護専門職を育てる教育的志向を有し、看護学の発展に寄与できる教育能力を有する			○
授業計画 (回数)	該当する到達目標	内容・事前/事後学習	担当者
1		オリエンテーション 理論とは、看護理論の変遷について	下平
2		看護理論の構造と特徴について	下平
3		看護実践・研究における看護理論とその活用方法 1. ナイチンゲール看護論と看護実践・研究	下平・野村
4		2. ヘンダーソン看護論と看護実践・研究	下平・野村
5		3. トラベルビー看護論と看護実践・研究	下平・野村
6		4. ペプロウ看護論と看護実践・研究	下平・野村
7		5. オレム看護論と看護実践・研究	下平・野村
8		オレム看護論と看護実践・研究	下平・野村
9		オレム看護論と看護実践・研究	下平・野村
10		6. 薄井坦子看護理論と看護実践・研究	下平・野村
11		7. ベナー看護論と看護実践・研究	下平・野村
12		8. M/ニューマ看護理論と看護実践・研究	下平・野村
13		看護私論の導出・作成と発表	下平・野村
14		看護私論の導出・作成と発表、まとめ	下平・野村
事前・事後学修	事前：各理論の源泉や概要について読み込み、臨床現場において理論がどのように活用されているのか把握したうえで、疑問をもって授業に臨む 事後：討論を通して疑問に対する考察を深め、レポートに反映させる。		

評価方法	授業の事前準備（関連文献の読み込み、資料準備等） 授業への参加状況、プレゼンテーションと課題レポートの評価 評価割合は、授業への参加状況（20%）プレゼンテーション（30%） 課題レポート（50%）とする。
課題に対する フィードバック	
教科書	筒井真由美編集：看護理論 - 看護理論20の理解と実践への応用、南江堂、2008
参考書	1. 都留伸子：看護理論家とその業績、第3版、医学書院、2004 2. 筒井真由美編集：看護理論家の業績と理論評価、医学書院、2015
履修上の注意点 及び取扱い	1. 事前・事後学習に対するフィードバックは授業内に行う。 2. 上記理論家の他に、興味と関心のある看護論や理論家（例：ロイ、ウィーデンバック、ロジャーズ、ベンダー等）についても選択学習すること可能です。

科目名	看護倫理		
科目コード	M1106	科目ナンバリング	
授業形態	講義	開講時期	1年後期
必修・選択	選択		
単位数	2単位	時間数	30時間
先修条件			
教員名	安藤 詳子・野村 千文・小倉 久美子・小島 徳子		
実務経験	総合病院の看護師（安藤、野村、小倉）、総合病院の助産師（小島）としての実務経験から、看護実践で遭遇する倫理的諸問題を含む事象について分析し、調整するための実践的方略を探求できるよう教授する。		
オフィスアワー	授業後30分間授（安藤、野村、小倉、小島） メールによる問い合わせ 安藤：s.ando.t@ikc.ac.jp 野村：c.nomura.t@ikc.ac.jp 小倉：k.ogura.t@ikc.ac.jp 小島：		
科目概要	看護実践における倫理的な問題・葛藤を察知・吟味・検討する倫理的感受性・思考・態度を培う。また、看護実践における倫理的課題に対するアプローチ方法を学び、適切な倫理判断によって関係者間の調整ができる実践能力を培う。		
到達目標	看護における倫理上の諸問題を考えるための、倫理原則や倫理的概念、倫理指針について説明できる。 医療・看護の場で直面する倫理的諸問題について説明できる。 臨床の場で遭遇する倫理的ジレンマに関する討議を通して、倫理的調整のプロセスを理解できる。 看護実践場面における倫理的問題に対する看護職者の役割を説明できる。 看護実践の場において倫理的感受性を高めるためのより適切な方略を模索できる。 看護研究における倫理的配慮と研究者の責務について説明できる。		
学位授与方針			対応
人間としての尊厳と権利を尊重した倫理観に基づき、看護学の幅広い知識と科学的根拠に裏付けされた看護を実践する能力を有する			
保健医療チームの一員として多職種と連携・協働し、リーダーシップを発揮する能力を有する			
ヘルスケアシステムの変革に対応し、組織を管理運営できるマネジメント能力を有する			
地域や臨床現場が抱える、多様な看護実践上の課題解決に向けた研究能力を有する			
看護専門職を育てる教育的志向を有し、看護学の発展に寄与できる教育能力を有する			
授業計画 (回数)	該当する到達目標	内容・事前/事後学習	担当者
1		看護における倫理：法と倫理、医療倫理・看護倫理の歴史の変遷	安藤
2		看護における倫理：倫理原則および看護実践上重要な倫理的概念、倫理的問題を検討するための方法論	安藤
3		周産期医療における倫理的課題	小島
4		周産期医療における倫理的課題	小島
5		高齢者医療における倫理的課題	野村
6		高齢者医療における倫理的課題	野村
7		急性期医療における倫理的課題	小倉
8		急性期医療における倫理的課題	小倉
9		がん医療における倫理的課題	安藤
10		がん医療における倫理的課題	安藤
11		倫理的課題の分析	安藤・野村
12		倫理的課題の分析	安藤・野村
13		倫理的課題へのアプローチ方法	安藤・野村
14		倫理的課題へのアプローチ方法	安藤・野村

事前・事後学修	事前学修：授業内容に関する文献や事前提示資料等を予習し、疑問をいくつか挙げて授業に臨む。 事後学修：講義・討論等を通して、その疑問に対する考察を深め、課題レポートに反映させる。
評価方法	講義・グループワークへの参加状況（20%）、プレゼンテーション（30%）、最終レポート（50%：コメントを付して返却する）
課題に対するフィードバック	
教科書	サラT.フライ&メガン-ジェーン・ジョンストン著：看護実践の倫理（第3版），日本看護協会出版会，2010.
参考書	適宜紹介する。
履修上の注意点及び取扱い	1. 学生が主体となって授業を進めるため、学修課題を明らかにして授業に臨む。 2. 授業は、学生のプレゼンテーションおよびディスカッションを通して、学びを深めるため、ディスカッションへの積極的な参加を求める。 3. 授業後は、学修内容を振り返り、関心や疑問などについて、自ら文献を活用し、理解を深める。

科目名	看護教育論		
科目コード	M1107	科目ナンバリング	
授業形態	講義	開講時期	1年前期
必修・選択	選択		
単位数	2単位	時間数	30時間
先修条件			
教員名	藤本 悦子・鈴江 智恵・肥田 武		
実務経験			
オフィスアワー	授業後30分間		
科目概要	教育の目的と本質を理解し、教育の諸問題を分析する力と今後の看護教育のあり方を展望する基盤を培う。		
到達目標	教育と社会との関係性について理解を深めることを通して、教育の目的と本質、教育のあり方について基礎的視点を獲得する。 看護教育の歴史的変遷について学び、より良い教育のあり方を検討することを通して教授方法の理論と技術を修得する。		
学位授与方針			対応
人間としての尊厳と権利を尊重した倫理観に基づき、看護学の幅広い知識と科学的根拠に裏付けされた看護を実践する能力を有する			○
保健医療チームの一員として多職種と連携・協働し、リーダーシップを発揮する能力を有する			
ヘルスケアシステムの変革に対応し、組織を管理運営できるマネジメント能力を有する			
地域や臨床現場が抱える、多様な看護実践上の課題解決に向けた研究能力を有する			
看護専門職を育てる教育的志向を有し、看護学の発展に寄与できる教育能力を有する			
授業計画 (回数)	該当する到達目標	内容・事前/事後学習	担当者
1		教育とは何か、教育の目的と本質、生涯学習・大人の学び	藤本
2		教育とは何か、教育の目的と本質、生涯学習・大人の学び	藤本
3		現代社会における教育の特徴と諸問題	肥田
4		現代社会における教育の特徴と諸問題	肥田
5		看護教育制度の歴史的変遷と現状の課題	藤本
6		看護教育制度の歴史的変遷と現状の課題	藤本
7		看護教育に関する基本的概念と教育方法	藤本
8		看護教育に関する基本的概念と教育方法	藤本
9		看護の継続教育	藤本・鈴江
10		看護の継続教育	藤本・鈴江
11		継続教育における授業案作成	藤本・肥田
12		継続教育における授業案作成	藤本・肥田
13		模擬授業の実施と評価、まとめ	藤本・肥田
14		模擬授業の実施と評価、まとめ	藤本・肥田
事前・事後学修	事前学習として、テーマに沿った文献を選択し、レジュメを作成しておくこと。		
評価方法	原則ゼミ形式で行うが、その際のディカッション参加度、授業案の完成度、模擬授業の評価を総合的に見て評価する。		
課題に対するフィードバック			
教科書	適宜提示		

参 考 書	1. 適宜提示 2. 論文を紹介
履修上の注意点 及び取扱い	導入講義を教員が行い、これにテーマにディスカッションする。また、模擬授業の実施に当たっては、受け持たせてもらう授業の責任教員と授業内容を打ち合わせて、許可をもらうこと。

科目名	看護管理論		
科目コード	M1108	科目ナンバリング	
授業形態	講義	開講時期	1年前期
必修・選択	選択		
単位数	2単位	時間数	30時間
先修条件			
教員名	大久保 清子・鈴江 智恵		
実務経験	大久保：総合病院での看護管理（看護部長）や病院経営（副院長）やCNAの実務経験。 鈴江：総合病院での看護管理（看護部長）やCNAの実務経験等から、医療経営や看護の質の管理、人的資源管理、効率性等の諸理論から現状を考察し今後の展望を講義や検討から導く。		
オフィスアワー	大久保（k.ohkubo.t@ikc.ac.jp）授業終了後30分 鈴江（t.suzue.t@ikc.ac.jp）授業終了後30分		
科目概要	社会・医療情勢の動向を概観し、現在の看護管理に求められる医療や看護マネジメントに関する諸理論の理解を深め、文献講読や検討を通じ、看護政策・看護管理の現状と課題を明らかにし、これからの看護管理を探求する。		
到達目標	組織における問題の分析から課題を明確化し目標が説明でき、課題の達成に向けて組織化しケアの質向上に向けた看護の組織運営の提案ができる。 看護の質の管理や人的資源管理が説明でき、チーム医療の協働や連携と看護職の業務遂行上の管理的機能が提案でき、経営参画を踏まえることができる。		
学位授与方針			対応
人間としての尊厳と権利を尊重した倫理観に基づき、看護学の幅広い知識と科学的根拠に裏付けされた看護を実践する能力を有する			○
保健医療チームの一員として多職種と連携・協働し、リーダーシップを発揮する能力を有する			
ヘルスケアシステムの変革に対応し、組織を管理運営できるマネジメント能力を有する			
地域や臨床現場が抱える、多様な看護実践上の課題解決に向けた研究能力を有する			
看護専門職を育てる教育的志向を有し、看護学の発展に寄与できる教育能力を有する			
授業計画 (回数)	該当する到達目標	内容・事前/事後学習	担当者
1		ガイダンス 日本の医療システムと看護管理の変遷	大久保
2		看護組織論	大久保
3		看護組織論	大久保
4		看護経営における経済・経営理論	大久保
5		組織診断と目標管理	大久保
6		組織診断と目標管理	大久保
7		看護組織に関する文献検討、看護管理研究の動向	鈴江
8		看護サービス提供論	鈴江
9		看護における人的資源管理論	大久保・鈴江
10		看護における人的資源管理論	大久保・鈴江
11		看護における人的資源管理論	大久保・鈴江
12		看護サービスに関わる政策の背景と動向 (保健師助産師看護師法、診療報酬、特定行為に関わる看護師の研修制度など)	大久保
13		看護サービスに関わる政策の背景と動向 (保健師助産師看護師法、診療報酬、特定行為に関わる看護師の研修制度など)	大久保
14		全体のまとめ	大久保・鈴江

事前・事後学修	事前学習：テーマ・キーワードに関する文献及び事前提示資料から、疑問や自分の考えをまとめ授業に臨む。 事後学習：講義を通して疑問や考えを考察し、最終レポートに反映させる。
評価方法	課題レポート70%と授業への参加状況（プレゼンテーション内容、討議）30%を基に総合的に評価。遠隔授業となった場合も同様とする。
課題に対するフィードバック	
教科書	必要時提示する。
参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護管理学習テキスト（2021）別巻 看護管理基本資料集、日本看護協会出版会</li> <li>・看護管理学習テキスト（2021）第5巻 経営資源管理論、日本看護協会出版会</li> <li>・看護管理学習テキスト（2021）第3巻 人材管理論、日本看護協会出版会</li> <li>・手島恵監訳（2021）看護職の基本的責務、日本看護協会出版会</li> <li>・P.F. ドラッカー、上田惇生訳（2001）マネジメント エッセンシャル版、ダイヤモンド社</li> </ul>
履修上の注意点及び取扱い	遠隔授業の場合は、ZOOMによるオンライン授業とする。 積極的な授業参加と取り組みを期待する。



科目名	コンサルテーション論		
科目コード	M1109	科目ナンバリング	
授業形態	講義	開講時期	1年後期
必修・選択	選択		
単位数	2単位	時間数	30時間
先修条件			
教員名	下平 唯子・熊地 美枝・岩井 美世子・兼田 美代		
実務経験	総合病院での看護師（下平）、専門看護師（熊地、岩井、兼田）として実務経験から、コンサルテーションの本質および解決困難事例に対する実践的方略を考究できるよう導く。		
オフィスアワー	毎回の授業後30分間（下平、熊地、岩井、兼田）及びメール問い合わせは 随時可能（下平：y.shimodaira.t@ikc.ac.jp）		
科目概要	保健医療におけるコンサルテーションの本質を理解し、解決困難な事象を改善するための方略を講じることで、より良い医療に向けて変革の一端を担う力を培う。具体的には、コンサルテーションの実施に向けた理論・概念を理解し、他の医療専門職者とのコンサルテーション活動を展開するための実践的技術を習得する。		
到達目標	<p>コンサルテーションの基本、プロセスの展開やコンサルタントの役割機能を的確に説明できる。</p> <p>各領域の事例分析、模擬コンサルテーション等を通して、解決困難事例の介入の方向性を提示することができる。</p> <p>コンサルタントとしての自己の課題を考察できる。</p> <p>コンサルテーションの実践的技術の基本を身につける。</p>		
学位授与方針			対応
人間としての尊厳と権利を尊重した倫理観に基づき、看護学の幅広い知識と科学的根拠に裏付けされた看護を実践する能力を有する			○
保健医療チームの一員として多職種と連携・協働し、リーダーシップを発揮する能力を有する			
ヘルスケアシステムの変革に対応し、組織を管理運営できるマネジメント能力を有する			○
地域や臨床現場が抱える、多様な看護実践上の課題解決に向けた研究能力を有する			
看護専門職を育てる教育的志向を有し、看護学の発展に寄与できる教育能力を有する			
授業計画 (回数)	該当する到達目標	内容・事前/事後学習	担当者
1		コンサルテーションの基本的概念	下平
2		コンサルテーションのタイプとプロセス	下平
3		コンサルタントの役割機能	下平
4		事例分析と介入方法	下平
5		精神科領域におけるリエゾン看護	熊地
6		精神科領域におけるコンサルテーションの実際	熊地
7		グループコンサルテーション	熊地
8		がん領域におけるコンサルテーションの実際	岩井
9		がん領域におけるコンサルテーションの実際	岩井
10		高齢者ケアにおけるコンサルテーションの実際	兼田
11		高齢者ケアにおけるコンサルテーションの実際	兼田
12		困難事例分析	下平
13		模擬コンサルテーション	下平
14		模擬コンサルテーション	下平

事前・事後学修	事前学習：テーマ・キーワードに関する文献や事前提示資料等を予習し、疑問をいくつか挙げて授業に臨む。 事後学習：講義・討論等を通して、その疑問に対する考察を深め、最終レポートに反映させる
評価方法	ミニレポート（60%） （講師ごとに合計4回、レポートはコメントを付して返却します） 最終レポート課題（20%）：コンサルタントとしての自己の課題について 授業への参加度（20%）：主体性、探究性、協調性、客観性、知的誠実さ等
課題に対するフィードバック	
教科書	必要時配付する
参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・E.H.シャイン著 稲葉元吉他訳：「プロセス・コンサルテーション 援助関係を築くこと」、白桃書房、2002年</li> <li>・日本専門看護師協議会監修：「精神看護スペシャリストに必要な理論と技法」：日本看護協会出版会、2009年</li> <li>・野末聖香編：「リエゾン精神看護 - 患者ケアとナース支援のために」、医歯薬出版、2006年</li> <li>・E.H.シャイン著、金井監訳：「謙虚なコンサルティング クライアントにとって“本当の支援”とは何か」、栄治出版、2017年</li> </ul>
履修上の注意点及び取扱い	授業での積極的な参加、姿勢を期待しています。

科目名	医療英語特論		
科目コード	M1110	科目ナンバリング	
授業形態	講義	開講時期	1年前期
必修・選択	必修		
単位数	2単位	時間数	15時間
先修条件			
教員名	櫻井 武・藤本 悦子		
実務経験	総合病院での臨床医（櫻井）、教育解剖（藤本）経験から、履修生が身近な医療情報に関する知見を深め、自ら英文医療情報にアクセスできる力と意欲を導く。		
オフィスアワー	授業後30分間、もしくは随時メールで受け付ける。 櫻井（t.sakurai.t@ikc.ac.jp）、藤本（e.fujimoto.t@ikc.ac.jp）		
科目概要	最新の英文医療情報にアクセスする能力を培い、グローバル化の時代に対応するためのリテラシーを高める。具体的には、医療に関する英語文献の読解力を高め、最新の医療情報に関する知見を深める。また、日本の医療情報や研究論文を海外に発信するために必要な英語文献作成の基本的技術を習得する。		
到達目標	<p>長文読解のポイントを理解することができる。 英語文献の基本的構造の理解と学術的常用英語の活用方法について、応用できる。</p> <p>英文リファレンスの基本を理解し、活用できる。 アブストラクトの構成要素を理解し、アブストラクトの作成ができる。 上記過程を通して、英文医療情報にコミットメントする態度が培われる。</p>		
学位授与方針			対応
人間としての尊厳と権利を尊重した倫理観に基づき、看護学の幅広い知識と科学的根拠に裏付けされた看護を実践する能力を有する			○
保健医療チームの一員として多職種と連携・協働し、リーダーシップを発揮する能力を有する			
ヘルスケアシステムの変革に対応し、組織を管理運営できるマネジメント能力を有する			
地域や臨床現場が抱える、多様な看護実践上の課題解決に向けた研究能力を有する			
看護専門職を育てる教育的志向を有し、看護学の発展に寄与できる教育能力を有する			
授業計画 (回数)	該当する到達目標	内容・事前/事後学習	担当者
1		長文読解の読解ポイント 医療に関する英字新聞、英語雑誌など	櫻井・藤本
2		長文読解の読解ポイント 医療に関する英字新聞、英語雑誌など	藤本
3		医療英語文献の基本的構造の理解と学術的常用英語の活用方法	藤本
4		医療英語文献の基本的構造の理解と学術的常用英語の活用方法	藤本
5		英文リファレンスの基本ルールの理解と活用方法（APAスタイル）	藤本
6		アブストラクトの構成要素の理解と作成の基本	藤本
7		アブストラクトの作成	櫻井・藤本
事前・事後学修	事前：講義に関する英文資料や課題文献を事前に読み、内容を日本語でまとめる。事後：講義・ディスカッションを通して、事前にまとめたものを振り返り、修正する。		
評価方法	課題30%、最終レポート70%		
課題に対するフィードバック			
教科書	「必ず読めるようになる医学英語論文 究極の検索術×読解術」康永 秀生，金原出版，2021		
参考書	1. 「Publication Manual of the American Psychological Association」American Psychological Association, Amer Psychological Assn; 第7版, 2019 2. 「Longman Dictionary of Contemporary English (6E)」 Pearson Japan; 第6版, 2014 3. 「ロングマン英語アクティベータ 第2版」, Pearson(ELT), 2002 4. 「Dr. イワケンのねころんで読める英語論文: ナース・研修医必見! 海外論文がすらすら読めるようになるヒケツ」 岩田健太郎, メディカ出版, 2018 5. NHK WORLD-JAPAN		



科目名	病態生理学特論		
科目コード	M1111	科目ナンバリング	
授業形態	講義	開講時期	1年前期
必修・選択	選択		
単位数	2単位	時間数	30時間
先修条件			
教員名	櫻井 武・藤本 悦子・小倉 久美子		
実務経験	各教員の臨床における実務経験(櫻井：医師、藤本：教育解剖、小倉：看護師)から、身体機能異常の原因とメカニズム及び看護への応用を追求できるよう導く。		
オフィスアワー	授業後30分間授業後30分間、もしくは随時メールで受け付ける。 櫻井 (t.sakurai.t@ikc.ac.jp)、藤本 (e.fujimoto.t@ikc.ac.jp)、 小倉 (k.ogura.t@ikc.ac.jp)		
科目概要	病態生理学は、人体の正常な機能の破綻や調節機能異常に基づく疾病と身体機能異常の原因を解明する学問である。医療人として知っておくべき重要な疾患に関する機能障害の原因とメカニズムを把握し、疾病予防や臨床判断の基盤となる知識・技術を獲得する。 解剖生理学の的確な理解のうえに、対象者の病態生理学的変化を解釈、看護臨床判断するために必要な知識と技術を習得し、エビデンスに基づいた看護実践への応用力を培う。		
到達目標	各機能障害の原因とメカニズムを把握することで、疾病予防や臨床判断の基盤となる知識・技術を獲得することができる。 対象者の病態生理学的変化を解釈、看護臨床判断するために必要な知識と技術を習得し、エビデンスに基づいた看護実践への応用力を身に付ける。		
学位授与方針			対応
人間としての尊厳と権利を尊重した倫理観に基づき、看護学の幅広い知識と科学的根拠に裏付けされた看護を実践する能力を有する			
保健医療チームの一員として多職種と連携・協働し、リーダーシップを発揮する能力を有する			
ヘルスケアシステムの変革に対応し、組織を管理運営できるマネジメント能力を有する			
地域や臨床現場が抱える、多様な看護実践上の課題解決に向けた研究能力を有する			
看護専門職を育てる教育的志向を有し、看護学の発展に寄与できる教育能力を有する			
授業計画 (回数)	該当する到達目標	内容・事前/事後学習	担当者
1		病態生理学の基礎	櫻井
2		免疫機能障害・腎機能障害の原因とメカニズム	櫻井
3		免疫機能障害・腎機能障害の原因とメカニズム	櫻井
4		呼吸器・循環器機能障害の原因とメカニズム	櫻井
5		呼吸器・循環器機能障害の原因とメカニズム	櫻井
6		代謝・調節機能障害の原因とメカニズム	櫻井
7		代謝・調節機能障害の原因とメカニズム	櫻井
8		消化・吸収障害の原因とメカニズム	櫻井
9		消化・吸収障害の原因とメカニズム	櫻井
10		脳・神経系障害の原因とメカニズム	櫻井
11		脳・神経系障害の原因とメカニズム	櫻井
12		感覚器系の機能障害の原因とメカニズム	櫻井
13		病態生理学の看護実践への応用	藤本・小倉
14		病態生理学の看護実践への応用	藤本・小倉
事前・事後学習		事前学習：テーマに関する疑問点を文献や書物等を用いて調べ授業に臨む。 事後学習：講義・討論等を通して、その疑問に対する考察を深め、プレゼンテーション、課題レポートに反映させる。	

評価方法	課題レポート(60%)：櫻井(1-12)、 プレゼンテーション(20%)：藤本・小倉(13-14) 授業への参加度(20%)で評価する。
課題に対する フィードバック	
教科書	病態生理学 (医学書院)
参考書	必要時配布する。例えば病気がみえるシリーズ(メディックメディア)はそれぞれの 分野ごとにかなり充実している
履修上の注意点 及び取扱い	がん療養生活支援看護学実習 - に進むための先修条件となる。 主体的な学習態度で臨むことを期待する。

科目名	臨床薬理学特論		
科目コード	M1112	科目ナンバリング	
授業形態	講義	開講時期	1年前期
必修・選択	選択		
単位数	2単位	時間数	30時間
先修条件			
教員名	永澤 悦伸		
実務経験	総合病院での重症集中看護の経験を活かし、薬物療法を受ける患者に対する看護展開に必要な薬理学・臨床薬理学の知識を教授する。		
オフィスアワー	授業後30分間		
科目概要	薬物療法における科学的根拠に基づいた看護展開に必要な薬理学・臨床薬理学を解説する。具体的には、薬理学、臨床薬理学の総論として薬物動態学と薬力学、各論として代表的疾患の薬物療法を取り上げ、「対象疾患に関連した生理・病態生理の知識を活用して使用薬物の作用機序ならびに薬物動態学的特徴を理解し、具体的な看護展開を考案する」という一連の臨床的思考方法について、医薬品情報の検索、事例検討も交えながら、講義形式で解説する。		
到達目標	薬物療法における科学的根拠に基づいた高度な看護実践として、適正な薬物使用の判断、投与後の患者モニタリングの的確な実施、また緊急時には適切な応急処置を実施できるようになるため、薬理学、臨床薬理学の基本的知識とその活用方法を習得する。		
学位授与方針			対応
人間としての尊厳と権利を尊重した倫理観に基づき、看護学の幅広い知識と科学的根拠に裏付けされた看護を実践する能力を有する			
保健医療チームの一員として多職種と連携・協働し、リーダーシップを発揮する能力を有する			
ヘルスケアシステムの変革に対応し、組織を管理運営できるマネジメント能力を有する			
地域や臨床現場が抱える、多様な看護実践上の課題解決に向けた研究能力を有する			
看護専門職を育てる教育的志向を有し、看護学の発展に寄与できる教育能力を有する			
授業計画 (回数)	該当する到達目標	内容・事前/事後学習	担当者
1		薬理学・臨床薬理学総論 薬物動態学、薬物相互作用、薬力学	永澤
2		薬理学・臨床薬理学総論 薬物動態学、薬物相互作用、薬力学	永澤
3		薬理学・臨床薬理学総論 薬物動態学、薬物相互作用、薬力学	永澤
4		医薬品添付文書、インタビューフォーム、 医薬品副作用データベース(JADER)の活用	永澤
5		代謝疾患(糖尿病)治療薬	永澤
6		循環器疾患(心不全)治療薬	永澤
7		輸液療法	永澤
8		抗腫瘍薬および支持療法に用いられる薬物	永澤
9		抗腫瘍薬および支持療法に用いられる薬物	永澤
10		鎮痛薬、鎮静薬	永澤
11		気分障害(うつ)治療薬	永澤
12		薬物治療における看護展開(事例検討含む)	永澤
13		薬物治療における看護展開(事例検討含む)	永澤
14		薬物治療における看護展開(事例検討含む)	永澤

事前・事後学修	事前学習：各授業回の内容について、看護学校時代の薬理学教科書、または、以下の電子教科書の該当箇所を一読して講義に臨む。 薬理学電子教科書 - Confluence (atlassian.net) <a href="https://drugacademy.atlassian.net/wiki/spaces/PHARMACOLOGY/overview?homepageId=163842">https://drugacademy.atlassian.net/wiki/spaces/PHARMACOLOGY/overview?homepageId=163842</a> 事後学習：講義資料を見直し、不明な点は各専門書の該当箇所を参照して、正確な理解に努める。
評価方法	事例発表（スライド、プレゼンテーション内容）（20%） 課題レポート（80%）
課題に対するフィードバック	
教科書	指定なし（配布する資料を基に講義を行う）
参考書	1.ハーバード大学講義テキスト 臨床薬理学 原書3版, 丸善出版 (2015) ISBN-10: 4621089161 2.薬がみえるvol.1, メディックメディア (2021) ISBN-10: 4896328310 3.薬がみえるvol.2, メディックメディア (2015) ISBN-10: 4896325850 4.薬がみえるvol.3, メディックメディア (2016) ISBN-10: 4896326407 5.薬がみえるvol.4, メディックメディア (2020) ISBN-10: 4896328000 6.ハーバード大学テキスト 心臓病の病態生理 第4版, メディカルサイエンスインターナショナル (2017) ISBN-10: 4895928918 7.がんエマージェンシー: 化学療法の有害反応と緊急症への対応, 医学書院 (2015) ISBN-10: 4260019600 8.しみじみわかる血栓止血 Vol.1 DIC・血液凝固検査編, 中外医学社 (2014) ISBN-10: 449812586X 9.しみじみわかる血栓止血 Vol.2 血栓症・抗血栓療法編, 中外医学社 (2015) ISBN-10: 4498125924 10.シチュエーションで学ぶ 輸液レッスン 第3版, メジカルビュー社 (2021) ISBN-10: 4758317828 11.いたみの教科書: 「疼痛医学」ダイジェスト版, 医学書院 (2021) ISBN-10: 4260049062 12.非がん慢性疼痛に対するオピオイド鎮痛薬処方ガイドライン 改訂第2版, 真興交易医書出版部 (2017) ISBN-10: 4880039160 13.がん疼痛の薬物療法に関するガイドライン 2020年版, 金原出版 (2020) ISBN-10: 4307102029 14.実践鎮痛・鎮静・せん妄管理ガイドブック 日本版・集中治療室における成人重症患者に対する痛み, 総合医学社 (2016) ISBN-10: 4883786420 15.128症例で身につける臨床薬学ハンドブック改定第3版, 羊土社 (2019) ISBN-10: 4758109419
履修上の注意点及び取扱い	がん療養生生活支援看護学実習 に進むための先修条件となる。



科目名	フィジカルアセスメント		
科目コード	M1113	科目ナンバリング	
授業形態	講義	開講時期	1年後期
必修・選択	選択		
単位数	2単位	時間数	30時間
先修条件			
教員名	藤本 悦子・櫻井 武・佐々木 久美子		
実務経験	死体解剖資格を有し教育解剖の経験（藤本）、医師としての臨床経験・教育解剖の経験（櫻井）、総合病院での看護師経験（佐々木）から、人体の構造と機能に基づいたフィジカルアセスメントを指導する。		
オフィスアワー	授業後30分間		
科目概要	基本的なフィジカルアセスメント技能を学修し終えた者を対象に授業する。高度実践看護師は、より複雑な健康問題を抱えた対象者に的確な臨床看護判断を行うことが求められる。このために、本科目では問診・打診・視診・触診、検査を通して得られた理解を、看護学、解剖学、生理学などの知識を活用して深化させ、対象の身体状況を系統的に把握する高い技術を養う。さらにチームのリーダーとして、フィジカルアセスメントの指導ができる方法を検討する。		
到達目標	フィジカルアセスメントの理解を深め科学的根拠に基づいたデータを収集し、これらを活用することによって、看護臨床判断能力を培う。 リーダーとしての的確なフィジカルアセスメントを普及できる能力を養う。		
学位授与方針			対応
人間としての尊厳と権利を尊重した倫理観に基づき、看護学の幅広い知識と科学的根拠に裏付けされた看護を実践する能力を有する			
保健医療チームの一員として多職種と連携・協働し、リーダーシップを発揮する能力を有する			
ヘルスケアシステムの変革に対応し、組織を管理運営できるマネジメント能力を有する			
地域や臨床現場が抱える、多様な看護実践上の課題解決に向けた研究能力を有する			
看護専門職を育てる教育的志向を有し、看護学の発展に寄与できる教育能力を有する			
授業計画 (回数)	該当する到達目標	内容・事前/事後学習	担当者
1		看護師が行うフィジカルアセスメントの意義と必要性	藤本
2		呼吸器系のフィジカルアセスメント	藤本
3		循環器系のフィジカルアセスメント	藤本
4		消化器系のフィジカルアセスメント	藤本
5		腎・泌尿器系のフィジカルアセスメント	藤本
6		脳神経系のフィジカルアセスメント	藤本
7		筋骨格系フィジカルアセスメント	藤本
8		症状別アセスメント（系統別）：循環器、呼吸器、消化器に関連する症状（動悸、喘鳴、下痢等）	櫻井・藤本
9		症状別アセスメント（系統別）：脳・神経、泌尿器、骨格器に関する症状（アトニーゼ、血尿等）	櫻井・藤本
10		症状別アセスメント（全身性）：ショック、意識障害、頭痛、胸痛、腹痛、腰背部痛、呼吸困難、チアノーゼ、浮腫等	櫻井・藤本
11		看護臨床判断の実際： フィジカルアセスメントを展開するシナリオ作成	藤本・佐々木
12		看護臨床判断の実際：シナリオの実施 (シミュレーションとデブリーフィング)	藤本・佐々木
13		看護臨床判断の実際：リーダーとしての役割(討議)	藤本・佐々木
14		フィジカルアセスメントの総括と課題	藤本・佐々木
事前・事後学修	事前：それぞれの単元で行う系統について、解剖学、生理学の知識を復習しておく 事後：授業の内容を加味して、アセスメントの理解を深める。		

評価方法	毎回の授業への参加度（80％）：主体性、探究性、協調性、客観性、知的誠実さ等 最終レポート（20％）
課題に対する フィードバック	
教科書	特になし、適宜資料配布する
参考書	授業の中で、適宜紹介する。
履修上の注意点 及び取扱い	がん療養生活支援看護学実習 - に進むための先修条件となります。 主体的な学習態度で臨むことを期待する。

科目名	看護マネジメント学特論		
科目コード	M2101	科目ナンバリング	
授業形態	講義	開講時期	1年前期
必修・選択	選択		
単位数	2単位	時間数	30時間
先修条件			
教員名	大久保 清子・鈴江 智恵・井尾 公司・日比野 友也		
実務経験	大久保：総合病院での看護管理（看護部長）や病院経営（副院長）やCNAの実務経験。 鈴江：総合病院での看護管理（看護部長）やCNAの実務経験を有する。医療経営や看護の質の管理、人的資源管理、効率性等の諸理論から現状を考察し、今後の展望を講義や検討から導く。		
オフィスアワー	授業終了後30分 大久保（k.ohkubo.t@ikc.ac.jp） 鈴江（t.suzue.t@ikc.ac.jp）		
科目概要	社会が求める保健医療福祉サービスの提供のために、わが国の社会保障制度や政策を概観し、組織の構築や他組織と連携し協働するために看護の理念を具現化する能力を高める。		
到達目標	保健医療福祉政策や社会保障制度の動向を理解し、施設での経営分析等から、今後の医療や看護サービスの方向性や看護現場の具体的事業、政策課題への改善策が考察できる。		
学位授与方針			対応
人間としての尊厳と権利を尊重した倫理観に基づき、看護学の幅広い知識と科学的根拠に裏付けされた看護を実践する能力を有する			
保健医療チームの一員として多職種と連携・協働し、リーダーシップを発揮する能力を有する			○
ヘルスケアシステムの変革に対応し、組織を管理運営できるマネジメント能力を有する			○
地域や臨床現場が抱える、多様な看護実践上の課題解決に向けた研究能力を有する			
看護専門職を育てる教育的志向を有し、看護学の発展に寄与できる教育能力を有する			
授業計画 (回数)	該当する到達目標	内容・事前/事後学習	担当者
1		ガイダンス わが国の社会保障制度の概念と現状	大久保
2		諸外国の社会保障制度の現状	大久保
3		医療の効率性と資源配分	大久保
4		医療の効率性と資源配分	大久保
5		医療の効率性と資源配分	大久保
6		病院の財務管理論（財務諸表と組織活動）	大久保・井尾
7		病院の財務管理論（財務諸表と組織活動）	大久保・井尾
8		病院の財務管理論（財務諸表と組織活動）	鈴江・日比野
9		看護組織の現状や管理・運営等におけるデータ把握・分析・活用	鈴江
10		看護組織の現状や管理・運営等におけるデータ把握・分析・活用	鈴江
11		看護組織の現状や管理・運営等におけるデータ把握・分析・活用	鈴江
12		臨床・地域における看護サービスに関わる政策課題	鈴江
13		臨床・地域における看護サービスに関わる政策課題	鈴江
14		各自の組織での果たすべき役割	大久保・鈴江
事前・事後学修	事前学習：テーマ・キーワードに関する文献及び事前提示資料から、疑問や自分の考えをまとめ授業に臨む。 事後学習：講義を通して疑問や考えを考察し、最終レポートに反映させる。		

評価方法	課題レポート70%と授業への参加状況（プレゼンテーション内容、討議）30%を基に総合的に評価。遠隔授業となった場合も同様とする。
課題に対するフィードバック	
教科書	必要時提示する。
参考書	1.尾形裕也（2021）看護管理者のための医療経営学,第3版,日本看護協会出版会 2.中島明彦（2017）医療福祉経営入門,同友館 3.看護管理学習テキスト（2021）第4巻 経営管理論,日本看護協会出版会
履修上の注意点及び取扱い	遠隔授業の場合は、ZOOMによるオンライン授業とする。 積極的な授業参加と取り組みを期待する。

科目名	看護マネジメント学特論		
科目コード	M2102	科目ナンバリング	
授業形態	講義	開講時期	1年後期
必修・選択	選択		
単位数	2単位	時間数	30時間
先修条件			
教員名	大久保 清子・鈴江 智恵		
実務経験	大久保：総合病院での看護管理（看護部長）や病院経営（副院長）やCNAの実務経験。 鈴江：総合病院での看護管理（看護部長）やCNAの実務経験を有する。医療経営や看護の質の管理、人的資源管理、効率性等の諸理論から現状を考察し、今後の展望を講義や検討から導く。		
オフィスアワー	授業終了後30分 大久保（k.ohkubo.t@ikc.ac.jp） 鈴江（t.suzue.t@ikc.ac.jp）		
科目概要	保健医療福祉サービスの経営におけるマーケティングや労務環境の知識を深め、人材フローのマネジメントと労働管理について考察し、地域と共に価値を創成する組織のあり方を探求する。		
到達目標	施設の経営を理解し人材資源の活用等を探求し、保健医療福祉サービス組織を創造し組織デザインと人的資源のデザインが説明できる。組織での危機管理における安全文化の醸成や医療安全対策が考察できる。地域と共に価値を創造する組織や人的資源活用のデザインについて探求できる。		
学位授与方針			対応
人間としての尊厳と権利を尊重した倫理観に基づき、看護学の幅広い知識と科学的根拠に裏付けされた看護を実践する能力を有する			
保健医療チームの一員として多職種と連携・協働し、リーダーシップを発揮する能力を有する			
ヘルスケアシステムの変革に対応し、組織を管理運営できるマネジメント能力を有する			
地域や臨床現場が抱える、多様な看護実践上の課題解決に向けた研究能力を有する			
看護専門職を育てる教育的志向を有し、看護学の発展に寄与できる教育能力を有する			
授業計画 (回数)	該当する到達目標	内容・事前/事後学習	担当者
1		ガイダンス 人材フローのマネジメント	大久保
2		人材フローのマネジメント	大久保
3		保健医療福祉領域の労働環境と労務管理	鈴江
4		保健医療福祉領域の労働環境と労務管理	鈴江
5		地域社会におけるリスクマネジメント	鈴江
6		地域社会におけるリスクマネジメント	鈴江
7		保健医療福祉組織のリスクマネジメント (事業継続計画など)	鈴江
8		保健医療福祉組織のリスクマネジメント (事業継続計画など)	鈴江
9		保健医療福祉組織のリスクマネジメント (事業継続計画など)	鈴江
10		組織行動のマネジメント (モチベーション、リーダーシップ、コンフリクト、組織文化など)	大久保
11		組織行動のマネジメント (モチベーション、リーダーシップ、コンフリクト、組織文化など)	大久保
12		組織行動のマネジメント (モチベーション、リーダーシップ、コンフリクト、組織文化など)	大久保
13		地域と共に価値を創造する組織の構築	大久保・鈴江
14		地域と共に価値を創造する組織の構築	大久保・鈴江

事前・事後学修	事前学習：テーマ・キーワードに関する文献及び事前提示資料から、疑問や自分の考えをまとめ授業に臨む。 事後学習：講義を通して疑問や考えを考察し、最終レポートに反映させる
評価方法	課題レポートと授業への参加状況70%（プレゼンテーション内容、討議）30%を基に総合的に評価。遠隔授業となった場合も同様とする。
課題に対するフィードバック	
教科書	必要時提示する。
参考書	1. スティーブ, P. ロビンズ, 高木晴夫訳 (2009), 組織行動のマネジメント-入門から実践へ, ダイヤモンド社. 2. 金井壽宏, 高橋潔 (2008) 組織行動の考え方ーひとを活かし組織力を高める9つのキーワード, 東洋経済新報社. 3. 看護管理学習テキスト (2021) 第1巻, ヘルスケアシステム論, 日本看護協会出版会. 4. ポール・ハーシー, ケネス・H, ケネス・H ブランチャード他, 山本成司他訳 (2001) 行動科学の展開, 生産性出版.
履修上の注意点及び取扱い	遠隔授業の場合は、ZOOMによるオンライン授業とする。 積極的な授業参加と取り組みを期待する。

科目名	看護マネジメント学演習		
科目コード	M2103	科目ナンバリング	
授業形態	講義・演習	開講時期	1年後期
必修・選択	選択		
単位数	2単位	時間数	45時間
先修条件			
教員名	大久保 清子・鈴江 智恵・岡山（長谷川） ミサ子・住田 千鶴子・清水 輝子		
実務経験	大久保：総合病院での看護管理（看護部長）や病院経営（副院長）やCNAの実務 経験 鈴江：総合病院での看護管理（看護部長）やCNAの実務経験から、医療や看護の質の管理、人的資源管理、効率性等の諸理論から現状を考察し今後の展望を講義や検討から導く。		
オフィスアワー	授業終了後30分 大久保（k.ohkubo.t@ikc.ac.jp） 鈴江（t.suzue.t@ikc.ac.jp）		
科目概要	保健医療福祉サービスを提供し組織マネジメントを実際に行い、地域で活躍している管理者から情報提供を受け、マネジメントの現状とそこにある課題を把握し、自身が持っている研究課題を明確にする。		
到達目標	保健医療福祉サービス提供組織におけるマネジメントの実際を把握し、自身が持っている研究課題を明確にする。		
学位授与方針			対応
人間としての尊厳と権利を尊重した倫理観に基づき、看護学の幅広い知識と科学的根拠に裏付けされた看護を実践する能力を有する			○
保健医療チームの一員として多職種と連携・協働し、リーダーシップを発揮する能力を有する			
ヘルスケアシステムの変革に対応し、組織を管理運営できるマネジメント能力を有する			
地域や臨床現場が抱える、多様な看護実践上の課題解決に向けた研究能力を有する			
看護専門職を育てる教育的志向を有し、看護学の発展に寄与できる教育能力を有する			
授業計画（回数）	該当する到達目標	内容・事前/事後学習	担当者
1		ガイダンス 看護管理者のコンピテンシー	鈴江
2		地域で活躍するリーダーの活動の実際	岡山
3		人材フローマネジメントの実際	大久保
4		現状と課題のまとめ	大久保・鈴江
5		現状と課題のまとめ	大久保・鈴江
6		保健医療福祉組織における労務管理の実際	鈴江・住田
7		保健医療福祉組織における労務管理の実際	鈴江・清水
8		保健医療福祉組織におけるリスクマネジメントの実際	鈴江・住田
9		保健医療福祉組織におけるリスクマネジメントの実際	鈴江・清水
10		保健医療福祉組織における感染対策マネジメントの実際	鈴江
11		保健医療福祉組織における感染対策マネジメントの実際	鈴江
12		地域社会のリスクマネジメントの実際	鈴江
13		地域社会のリスクマネジメントの実際	鈴江
14		地域社会のリスクマネジメントの実際	鈴江
15		地域との価値を創造する組織構築の実際	鈴江
16		地域との価値を創造する組織構築の実際	鈴江
17		認定看護管理者の役割と責任、 <sub>31</sub> 活動の実際	大久保

授業計画 (回数)	該当する 到達目標	内容・事前/事後学習	担当者
18		看護管理者のマネジメントの実際から学ぶ インタビュー及びシャドーイング	鈴江
19		インタビュー及びシャドーイング	鈴江
20		インタビュー及びシャドーイング	鈴江
21		インタビュー及びシャドーイング	鈴江
事前・事後学修		事前学習：テーマ・キーワードに関する文献及び事前提示資料から、疑問や自分の考えをまとめ授業に臨む。 事後学習：授業のみならずインタビュー、シャドーイング、討議を通して自身が持っている疑問、マネジメント課題をまとめる	
評価方法		課題レポート70%と授業への参加状況（プレゼンテーション内容、討議）30%を基に総合的に評価。遠隔授業となった場合も同様とする。	
課題に対する フィードバック			
教科書		必要時提示する。	
参考書		必要時紹介する。	
履修上の注意点 及び取扱い		遠隔授業の場合は、ZOOMによるオンライン授業とする。 積極的な授業参加と取り組みを期待する。	



科目名	看護科学特論		
科目コード	M2104	科目ナンバリング	
授業形態	講義	開講時期	1年前期
必修・選択	選択		
単位数	2単位	時間数	30時間
先修条件			
教員名	藤本 悦子・石井 成郎・肥田 武		
実務経験			
オフィスアワー	授業後30分間		
科目概要	質の高い看護を実践するには、患者や看護学生を含む看護職者への科学的教育が必要である。このため教育にかかわる理論や方法論を多様な視点から概観し、論理的・合理的に看護教育を実践するための基礎的な能力を培う。		
到達目標	教育理論に関する文献を読み、内容について論点を整理し考察する能力を獲得する。 。対象や課題の多様性を考慮した指導を行うための知識と技術を修得する。		
学位授与方針			対応
人間としての尊厳と権利を尊重した倫理観に基づき、看護学の幅広い知識と科学的根拠に裏付けされた看護を実践する能力を有する			
保健医療チームの一員として多職種と連携・協働し、リーダーシップを発揮する能力を有する			
ヘルスケアシステムの変革に対応し、組織を管理運営できるマネジメント能力を有する			
地域や臨床現場が抱える、多様な看護実践上の課題解決に向けた研究能力を有する			
看護専門職を育てる教育的志向を有し、看護学の発展に寄与できる教育能力を有する			
授業計画 (回数)	該当する到達目標	内容・事前/事後学習	担当者
1		教育理論の基礎 社会と教育	肥田
2		社会と教育	肥田
3		学習者と教育	肥田
4		学習者と教育	肥田
5		医療と教育	藤本
6		医療と教育	藤本
7		教育方法論の基礎 インストラクショナルデザインの基礎	石井
8		インストラクショナルデザインの基礎	石井
9		テーマ・学習目標の設定	石井
10		テーマ・学習目標の設定	石井
11		コンテンツ・テストの作成	石井
12		コンテンツ・テストの作成	石井
13		企画書の作成	石井
14		企画書の作成	石井
事前・事後学修	事前学習：指定されたテキストや資料を読み、基本的な用語等を理解する。 事後学習：授業内容を振り返り、課題を作成・提出する。		
評価方法	各回に設定された演習課題：100%		
課題に対するフィードバック			
教科書	指定しない		

参 考 書	鈴木克明著：「教材設計マニュアル：独学を支援するために」、北大路書房、2002年
履修上の注意点 及び取扱い	

科目名	看護科学特論		
科目コード	M2105	科目ナンバリング	
授業形態	講義	開講時期	1年後期
必修・選択	選択		
単位数	2単位	時間数	30時間
先修条件			
教員名	藤本 悦子・石井 成郎		
実務経験			
オフィスアワー	授業後30分間		
科目概要	地域における様々な健康レベルの対象者について、生命力や生活力をアセスメントし、問題を科学的根拠に基づいて解決する基盤として、生体情報を収集し評価する知識と技術を修得する。		
到達目標	機器を使った生体情報の測定方法とデータ解析方法を修得する。 トランスレーショナル・リサーチのために、臨床への応用力を獲得する。		
学位授与方針			対応
人間としての尊厳と権利を尊重した倫理観に基づき、看護学の幅広い知識と科学的根拠に裏付けされた看護を実践する能力を有する			
保健医療チームの一員として多職種と連携・協働し、リーダーシップを発揮する能力を有する			
ヘルスケアシステムの変革に対応し、組織を管理運営できるマネジメント能力を有する			
地域や臨床現場が抱える、多様な看護実践上の課題解決に向けた研究能力を有する			○
看護専門職を育てる教育的志向を有し、看護学の発展に寄与できる教育能力を有する			○
授業計画 (回数)	該当する到達目標	内容・事前/事後学習	担当者
1		看護における科学とは？ 看護になぜ科学的思考が求められるのか オリエンテーションを行い授業目的・目標に照らした学修課題を明確にする	藤本
2		学修課題の説明 自己紹介、研究課題の発表、文献の選定方法	藤本
3		最良の看護技術を探求する 看護技術の検証 科学的根拠を見つけ出す 研究課題に関連した問題の抽出  事前学習：文献の選定、レビュー	藤本
4		看護技術の検証 科学的根拠を見つけ出す 文献検討、クリティーク  事前学習：研究に関する動向 事後学習：討議内容を振り返り、学びを深める	藤本
5		看護研究における生体情報測定の必要性 生体情報の測定方法を学修する なぜ必要か 何を測定するかを考える	藤本
6		生体情報の測定方法を学修する 文献検討  事前学習：測定方法に関連する文献を精読しておくこと 事後学習：討議内容を振り返り、学びを深める	藤本
7		各自の研究テーマにとって有用な情報収集法の検討 情報収集の方法を組み立てる  事前学習：必要な機器を考える	藤本
8		測定方法を助案する	藤本
9		生体情報の測定方法・解析 測定方法を決定する 何をどこまで分かるのかを明確にする	藤本
10		測定方法を決定する  事前学習：実現性を検討しておく 事後学習：討議内容を振り返り、方法に修正を加える	藤本

授業計画 (回数)	該当する到達目標	内容・事前/事後学習	担当者
11		看護ケアの評価(生体情報の解析を通じた評価) 測定から得られたデータの解析方法を決定する  事前学習:統計処理の方法を調べておく 事後学習:討議内容を振り返り、学びを深める	藤本・石井
12		データから対象について評価できることを明らかにする  事後学習:討議内容を振り返り、看護にどのように寄与するかを検討する	藤本・石井
13		研究へのアプローチ 研究の対象を明確にする  事前学習:文献から対象者の特性・必要性を導きだし、自分の研究に適応するか、協力が得られるかを検討しておく	藤本・石井
14		現実的なアプローチを勧告し、発表する。 必要な対象数を決定する  事前学習:サンプル数の計算法を理解しておくこと 事後学習:討議内容を振り返り、学びを深める	藤本・石井
事前・事後学修			
評価方法		ディスカッション参加度、プレゼンテーション、プレゼンテーション資料、内容の論理性を総合的に見て評価する。	
課題に対する フィードバック			
教科書		適宜紹介する	
参考書		適宜紹介する	
履修上の注意点 及び取扱い			

科目名	看護科学演習		
科目コード	M2106	科目ナンバリング	
授業形態	講義・演習	開講時期	1年後期
必修・選択	選択		
単位数	2単位	時間数	45時間
先修条件			
教員名	藤本 悦子・石井 成郎		
実務経験			
オフィスアワー	授業後30分間		
科目概要	研究に活用するために、看護実践、または教育実践のフィールド（大学、大学病院、看護地域創成研修センター、訪問看護ステーション）において、人体情報（血圧・脈拍・血糖・自律神経活動・睡眠状況など）または教育情報（インストラクショナルデザインに基づいた教育の成果など）の収集を行い、評価する能力を培う。		
到達目標	地域のフィールドの特性を踏まえたうえで、各自の研究テーマに関連して、情報収集を行い、さらに解析、評価までの一連の過程を遂行する能力を取得する。		
学位授与方針			対応
人間としての尊厳と権利を尊重した倫理観に基づき、看護学の幅広い知識と科学的根拠に裏付けされた看護を実践する能力を有する			○
保健医療チームの一員として多職種と連携・協働し、リーダーシップを発揮する能力を有する			
ヘルスケアシステムの変革に対応し、組織を管理運営できるマネジメント能力を有する			
地域や臨床現場が抱える、多様な看護実践上の課題解決に向けた研究能力を有する			○
看護専門職を育てる教育的志向を有し、看護学の発展に寄与できる教育能力を有する			○
授業計画 (回数)	該当する 到達目標	内容・事前/事後学習	担当者
1		情報収集内容・方法の検討	藤本・石井
2		情報収集内容・方法の検討	藤本・石井
3		情報収集内容・方法の検討	藤本・石井
4		地域フィールドの選択と調整	藤本・石井
5		地域フィールドの選択と調整	藤本・石井
6		地域フィールドの選択と調整	藤本・石井
7		対象者の特性把握	藤本・石井
8		対象者の特性把握	藤本・石井
9		対象者の特性把握	藤本・石井
10		準備（測定機器使用の習熟あるいはテストの作成、アンケートの作成）	藤本・石井
11		準備（測定機器使用の習熟あるいはテストの作成、アンケートの作成）	藤本・石井
12		準備（測定機器使用の習熟あるいはテストの作成、アンケートの作成）	藤本・石井
13		実施（生体情報の測定あるいはインストラクショナルデザインに基づいた教育）	藤本・石井
14		実施（生体情報の測定あるいはインストラクショナルデザインに基づいた教育）	藤本・石井
15		実施（生体情報の測定あるいはインストラクショナルデザインに基づいた教育）	藤本・石井
16		データ解析と評価	藤本・石井
17		データ解析と評価	藤本・石井
18		データ解析と評価	藤本・石井

授業計画 (回数)	該当する 到達目標	内容・事前/事後学習	担当者
19		プレゼンテーションと結果報告書の作成	藤本・石井
20		プレゼンテーションと結果報告書の作成	藤本・石井
21		臨床への応用(ディスカッション)	藤本・石井
事前・事後学修			
評価方法		フィールドワーク参加度、プレゼンテーション、報告書を総合的に評価する。	
課題に対する フィードバック			
教科書		適宜紹介	
参考書		鈴木克明著：「教材設計マニュアル：独学を支援するために」、北大路書房、2002年	
履修上の注意点 及び取扱い			

科目名	次世代育成看護学特論		
科目コード	M2201	科目ナンバリング	
授業形態	講義	開講時期	1年前期
必修・選択	選択		
単位数	2単位	時間数	30時間
先修条件			
教員名	小島 徳子・高橋 由紀		
実務経験	大学病院（高橋）や総合病院（小島）における助産師としての実務経験より、周産期にある女性とその家族に対する適切な助産ケアを学ぶことができるように導く。		
オフィスアワー	授業後30分間		
科目概要	昨今の超少子高齢社会にあって、女性が子を産み育てることは自然な営みではなくなりつつあり、女性の健康や健康に関わる権利は、生活の基盤となる地域社会の有り様に影響を受ける。そのため、母子への看護を実践する上で女性の健康や子を産み育てることが、時代や社会の影響を受けるという背景を踏まえ、次世代育成の観点から、思春期からの親性発達への積極的な支援が求められる。特に、妊娠・分娩・産褥の親役割獲得にむけての支援は喫緊の課題であり、母子支援に必要な基盤となる理論を学習する。また、母親をひとりの女性として、女性の健康概念をリプロダクティブヘルスの視点から捉え、ライフコース各期にある女性とその家族の特性と健康問題について概観し、理解を深めるとともに周産期にある女性とその家族の支援に必要な基礎的能力を養う。		
到達目標	周産期にある女性とその家族の持つ主要な健康問題や親性の発達、次世代の健康への影響を取り上げ、有効な看護支援実践のための方法を探求する。		
学位授与方針			対応
人間としての尊厳と権利を尊重した倫理観に基づき、看護学の幅広い知識と科学的根拠に裏付けされた看護を実践する能力を有する			
保健医療チームの一員として多職種と連携・協働し、リーダーシップを発揮する能力を有する			○
ヘルスケアシステムの変革に対応し、組織を管理運営できるマネジメント能力を有する			
地域や臨床現場が抱える、多様な看護実践上の課題解決に向けた研究能力を有する			
看護専門職を育てる教育的志向を有し、看護学の発展に寄与できる教育能力を有する			
授業計画 (回数)	該当する到達目標	内容・事前/事後学習	担当者
1		現代の母子を取り巻く社会状況、文化的背景、地域特性	小島
2		現代の母子を取り巻く社会状況、文化的背景、地域特性	小島
3		ライフコース各期のリプロダクティブヘルスに関するアセスメント	小島
4		ライフコース各期のリプロダクティブヘルスに関するアセスメント	小島
5		母性看護に関する理論（ルービンの母性論）	高橋
6		母性看護に関する理論（マーサーの母親役割獲得理論）	高橋
7		母性性、母親役割獲得、親になることへの支援	小島
8		地域における周産期にある女性と家族への支援	小島
9		地域における女性と栄養、次世代への影響と支援	小島・高橋
10		地域における母乳育児支援	小島
11		地域で働く女性の健康問題と支援、子育てとワークライフバランス	小島
12		地域における不妊女性の健康と自己決定を促す支援	小島
13		地域における多職種連携・協働による周産期にある女性への支援、まとめ	小島
14		地域における多職種連携・協働による周産期にある女性への支援、まとめ	小島

事前・事後学修	事前学習：テーマ・キーワードに関する文献や事前に提示された資料等を予習し、疑問をいくつか挙げて授業に臨む。 事後学習：講義や討論等を通して、その疑問に対する考察を深め、課題発表や課題レポートに反映させる
評価方法	課題レポート40%、課題発表40%、授業への参加度20%（主体性・探求性・客観性・誠実性・協調性など）
課題に対するフィードバック	
教科書	特になし
参考書	授業の中で適宜配布する
履修上の注意点及び取扱い	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業の2/3以上出席すること</li> <li>2. 授業前後の自己学習によって、理解を深めること</li> <li>3. 授業には積極的に参加し、疑問や意見はその場で発言すること</li> </ol>



科目名	次世代育成看護学特論		
科目コード	M2202	科目ナンバリング	
授業形態	講義	開講時期	1年後期
必修・選択	選択		
単位数	2単位	時間数	30時間
先修条件			
教員名	小島 徳子・高橋 由紀・加藤 千明		
実務経験	病院における助産師（小島・高橋）や病院における看護師（加藤）としての実務経験により、周産期にある女性とその家族に対する適切な助産ケアを学ぶことができるように導く。		
オフィスアワー	授業後30分間		
科目概要	昨今の超少子高齢社会にあって、女性が子を産み育てることは自然な営みではなくなりつつあり、次世代育成に関して、人口減少にとどまらず、親性の発達、育児能力の獲得、児童虐待、子どもの健康障害など、多くの社会問題が生じている。そのため、次世代を担う子どもが、自らの健康を維持する能力を獲得し、将来、乳幼児を養育する親になれるよう親性発達への支援は重要である。そこで、幅広く関連ある概念と諸理論を学び、各期の発達と健康をアセスメントし、健康問題を持つ子どもとその親への支援を考える能力を養う。		
到達目標	子どもを産み育てる女性とその家族の持つ健康問題や親性の発達、次世代の健康への影響を取り上げ、有効な看護支援実践のための方法論を探求する。		
学位授与方針			対応
人間としての尊厳と権利を尊重した倫理観に基づき、看護学の幅広い知識と科学的根拠に裏付けされた看護を実践する能力を有する			
保健医療チームの一員として多職種と連携・協働し、リーダーシップを発揮する能力を有する			○
ヘルスケアシステムの変革に対応し、組織を管理運営できるマネジメント能力を有する			
地域や臨床現場が抱える、多様な看護実践上の課題解決に向けた研究能力を有する			○
看護専門職を育てる教育的志向を有し、看護学の発展に寄与できる教育能力を有する			
授業計画 (回数)	該当する到達目標	内容・事前/事後学習	担当者
1		母子保健、子育て支援、社会環境の現状と課題	小島
2		母子保健、子育て支援、社会環境の現状と課題	小島
3		乳幼児と母親の愛着形成と母子相互作用 (ボウルビーの愛着理論・バーナードの親子相互作用モデル)	高橋
4		乳幼児の成長発達段階と発達理論 (フロイト・エリクソン・ピアジェの理論)	高橋
5		家族発達システム理論	高橋
6		親性の発達支援	小島
7		子どもと家族のストレス・コーピング、育児ストレスと支援	加藤
8		地域における母子分離における母乳育児支援	小島
9		地域におけるNICU入院児のケアと家族への支援	小島
10		地域における医療的ケア児のケアと家族への支援	加藤
11		地域における生活習慣病予防のための子どもと家族への支援	加藤
12		地域における子ども虐待防止のための子どもと家族への支援	小島
13		地域における多職種連携・協働による子育て支援、まとめ	小島
14		地域における多職種連携・協働による子育て支援、まとめ	小島
事前・事後学修	事前学習：テーマ・キーワードに関する文献や事前に提示された資料等を予習し、疑問をいくつか挙げて授業に臨む。 事後学習：講義や討論等を通して、その疑問に対する考察を深め、課題発表や課題レポートに反映させる		

評価方法	課題レポート40%、課題発表40%、授業への参加度20%（主体性・探求性・客観性・誠実性・協調性など）
課題に対するフィードバック	
教科書	特になし
参考書	授業の中で適宜配布する
履修上の注意点及び取扱い	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業の2/3以上出席すること</li> <li>2. 授業前後の自己学習によって、理解を深めること</li> <li>3. 授業には積極的に参加し、疑問や意見はその場で発言すること</li> </ol>

科目名	次世代育成看護学演習		
科目コード	M2203	科目ナンバリング	
授業形態	講義・演習	開講時期	1年後期
必修・選択	選択		
単位数	2単位	時間数	45時間
先修条件			
教員名	小島 徳子・大瀬 恵子		
実務経験	総合病院（小島・大瀬）における助産師としての実務経験より、地域で生活している妊娠期から思春期までの女性とその家族、子どもとその親に対する支援の実践を学ぶことができるように導く。		
オフィスアワー	授業後30分間		
科目概要	地域で生活している妊娠期から思春期までの女性とその家族、子どもとその親を対象として、健康問題を様々な観点から明らかにし、看護支援方法を理論に基づき実践的に探究する。例えば、思春期からの親性の発達支援、周産期の心理的・身体的健康問題とその影響、将来の生活習慣病予防のための妊娠期の栄養や乳幼児期からの食育など、文献学習により理解を深める。 その後、フィールドワークにて自らの演習課題を明確化し、課題解決のための計画を立案、支援の実施、結果、評価までの過程を経験する。		
到達目標	文献学習やフィールドワークを通して、支援の実践を理解する。		
学位授与方針			対応
人間としての尊厳と権利を尊重した倫理観に基づき、看護学の幅広い知識と科学的根拠に裏付けされた看護を実践する能力を有する			○
保健医療チームの一員として多職種と連携・協働し、リーダーシップを発揮する能力を有する			○
ヘルスケアシステムの変革に対応し、組織を管理運営できるマネジメント能力を有する			
地域や臨床現場が抱える、多様な看護実践上の課題解決に向けた研究能力を有する			○
看護専門職を育てる教育的志向を有し、看護学の発展に寄与できる教育能力を有する			
授業計画 (回数)	該当する到達目標	内容・事前/事後学習	担当者
1		関心のある課題の文献学習	小島
2		関心のある課題の文献学習	小島
3		関心のある課題の文献学習	小島
4		フィールドワークにより、課題探求	小島・大瀬
5		フィールドワークにより、課題探求	小島・大瀬
6		フィールドワークにより、課題探求	小島・大瀬
7		演習課題の明確化	小島・大瀬
8		演習課題の明確化	小島・大瀬
9		演習計画立案	小島・大瀬
10		演習計画立案	小島・大瀬
11		演習計画立案	小島・大瀬
12		課題解決のための支援方法発表	小島・大瀬
13		フィールドワークにて支援の実践	大瀬
14		フィールドワークにて支援の実践	大瀬
15		フィールドワークにて支援の実践	大瀬
16		フィールドワークにて支援の実践	大瀬
17		フィールドワークにて支援の実践	大瀬

授業計画 (回数)	該当する 到達目標	内容・事前/事後学習	担当者
18		フィールドワークにて支援の実践	大瀬
19		実践まとめ	小島・大瀬
20		実践まとめ	小島・大瀬
21		実践報告・評価	小島・大瀬
事前・事後学修		事前学習：自らが興味を持つテーマ・キーワードに関連する文献等をいくつか準備して演習課題に臨む。 事後学習：フィールドワークを通して、自らの演習課題を明確にする。また、実践の振り返りを行い、効果的な実践に結びつける。	
評価方法		課題レポート20%、課題発表20%、実践評価表60%	
課題に対する フィードバック			
教科書		特になし	
参考書		適宜紹介する	
履修上の注意点 及び取扱い		主体的に学修を進めること	

科目名	急性・療養生活支援看護学特論		
科目コード	M2204	科目ナンバリング	
授業形態	講義	開講時期	1年前期
必修・選択	選択		
単位数	2単位	時間数	30時間
先修条件			
教員名	小倉 久美子・立松 美和・横井 博子		
実務経験	看護師としての病院実務経験(小倉)、集中ケア認定看護師(立松)と感染管理認定看護師(横井)としての実務経験から、急性期及び療養生活支援看護の実践的方略を探求できるよう導く。		
オフィスアワー	毎回の授業後30分間(小倉、立松、横井)及びメール問い合わせは 随時可能(小倉:k.ogura.t@ikc.ac.jp)		
科目概要	クリティカルな状況下にある患者と家族が抱える問題を理解するための諸理論について学修する。侵襲の高い治療を受ける患者の反応と病態を適切にとらえるために、看護臨床判断のプロセスを学び、適切な安全管理、家族支援を学修する。また、研究動向からクリティカルケア看護の今日的課題を探求する。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>クリティカルケア看護の専門性と基盤となる理論を説明できる。</li> <li>クリティカルケア看護における看護臨床判断のプロセスを理解できる。</li> <li>クリティカルケア下にある患者とその家族の心身の特徴と諸問題を説明できる。</li> <li>クリティカルケア看護における終末期看護及び家族支援を説明できる。</li> <li>クリティカルケア看護と在宅看護の課題を明確にすることができる。</li> <li>クリティカルケア看護の研究動向から、自身の実践課題を明確にできる。</li> </ul>		
学位授与方針			対応
人間としての尊厳と権利を尊重した倫理観に基づき、看護学の幅広い知識と科学的根拠に裏付けされた看護を実践する能力を有する			
保健医療チームの一員として多職種と連携・協働し、リーダーシップを発揮する能力を有する			○
ヘルスケアシステムの変革に対応し、組織を管理運営できるマネジメント能力を有する			
地域や臨床現場が抱える、多様な看護実践上の課題解決に向けた研究能力を有する			
看護専門職を育てる教育的志向を有し、看護学の発展に寄与できる教育能力を有する			
授業計画 (回数)	該当する到達目標	内容・事前/事後学習	担当者
1		クリティカルケア看護概論	小倉
2		クリティカルケア看護の基盤となる理論	小倉
3		クリティカルケア看護の基盤となる理論	小倉
4		クリティカルケア看護における臨床判断の特徴	小倉
5		クリティカルな状況下にある患者の苦痛とケア	小倉
6		クリティカルな状況下にある患者の苦痛とケア	小倉
7		クリティカルな状況下における二次障害と看護	小倉
8		クリティカルケア看護における安全管理と連携	横井・小倉
9		クリティカルケア看護における意思決定支援	小倉
10		クリティカルケア看護における家族支援	小倉
11		クリティカルケア看護における終末期ケア	立松・小倉
12		クリティカルケア看護における終末期ケア	小倉
13		クリティカルケア看護と地域連携	小倉
14		クリティカルケア領域における看護研究の動向と今後の課題	小倉
事前・事後学修		事前学習：テーマに関する疑問点を文献や参考書等を用いて調べ授業に臨む。 事後学習：講義・討論等を通して、その疑問に対する考察を深め、プレゼンテーション、課題レポートに反映させる。	

評価方法	プレゼンテーション(40%)，課題レポート(40%)，授業への参加度(20%)で評価する。
課題に対するフィードバック	
教科書	指定しない。
参考書	寺町優子,井上智子,深谷智恵子.(2007).クリティカルケア看護,理論と臨床への応用.日本看護協会出版会. 益田美津美,明石恵子(編)(2021).急性期:クリティカルケア.第2版,医学書院.
履修上の注意点及び取扱い	主体的な学習態度で臨むことを期待する。

科目名	急性・療養生活支援看護学特論		
科目コード	M2205	科目ナンバリング	
授業形態	講義	開講時期	1年後期
必修・選択	選択		
単位数	2単位	時間数	30時間
先修条件			
教員名	増永 悦子・安藤 詳子		
実務経験	看護師としての病院実務経験(安藤、増永)から、急性期及び療養生活支援看護の実践的方略を探究できるよう導く。		
オフィスアワー	授業後30分間		
科目概要	慢性の健康課題をもつ人と家族は、健康レベルの変化で、本来の生活の場(居宅)の地域だけでなく、病院・施設などの多様な場で療養生活を送っている。対象者の療養の場について、地域包括ケアシステムや多職種との連携・協働を踏まえて学習する。さらに、健康レベルや療養の場が変化しても、対象者の健康や生活の質の向上を希求し、対象者が主体的に健康課題に取り組むために必要な理論・概念を活用して、新たな方略の創造に繋がる能力を培うための看護実践能力、教育・研究能力を養う。		
到達目標	<p>「病むこと」「痛み」を手掛かりにして、慢性の健康課題をもちケアを必要とする人の内的体験を理解して考察する。</p> <p>慢性の健康課題をもち療養する人と家族の看護や、療養の場の特性の理解に必要な主要な概念・理論を説明できる。</p> <p>慢性の健康課題をもち療養する人と家族の看護で用いられる主要な概念・理論の看護実践への適応を探究する。</p> <p>慢性の健康課題をもち療養する人と家族の生活の質の向上を目指して、主要な概念・理論を用いて討議ができる。</p> <p>慢性期領域における教育・研究について希求する。</p>		
学位授与方針			対応
人間としての尊厳と権利を尊重した倫理観に基づき、看護学の幅広い知識と科学的根拠に裏付けされた看護を実践する能力を有する			
保健医療チームの一員として多職種と連携・協働し、リーダーシップを発揮する能力を有する			
ヘルスケアシステムの変革に対応し、組織を管理運営できるマネジメント能力を有する			
地域や臨床現場が抱える、多様な看護実践上の課題解決に向けた研究能力を有する			
看護専門職を育てる教育的志向を有し、看護学の発展に寄与できる教育能力を有する			
授業計画(回数)	該当する到達目標	内容・事前/事後学習	担当者
1		病むことの意味、臨床学的考察	増永・安藤
2		慢性期における痛みの哲学的考察	増永・安藤
3		『病みの軌跡』理論の活用	増永・安藤
4		生涯発達に関する理論	安藤・増永
5		危機介入に関する理論と臨床への応用	安藤・増永
6		危機介入に関する理論と臨床への応用	安藤・増永
7		ストレスコーピングに関する理論と臨床への応用	安藤・増永
8		ストレスコーピングに関する理論と臨床への応用	安藤・増永
9		ボディイメージ・自己概念に関する理論と臨床への応用	安藤・増永
10		ボディイメージ・自己概念に関する理論と臨床への応用	安藤・増永
11		自己効力感に関する理論と活用	安藤・増永
12		不確かさに関する理論と活用	安藤・増永
13		全体性パラダイムに基づく理論と活用	安藤・増永
14		慢性期領域における研究の動向と課題	増永

事前・事後学修	事前学習：資料・文献等を用いて、講義のテーマを学習し講義に臨む。 事後学習：講義や講義内での発表、討論等を通して、関心領域の対象者の理解を深め、研究の動向と課題について、発表内容や課題レポートに反映させる。
評価方法	発表時の発表内容(40%)，課題レポート(40%)，講義への参加度(20%)で評価する。
課題に対するフィードバック	
教科書	指定しない。
参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アーサー・Wフランク(著)/井上哲彰(翻訳)：からだの知恵に聴く - 人間尊重の医療を求めて，単行本，日本教文社，再版，2010/2/5</li> <li>・アーサー・クライマン(著)/江口重幸ら(翻訳)：病いの語り - 慢性の病いをめぐる臨床人類学，単行本，誠信書房，1版(13刷)，2009/1/30</li> <li>・ビエール・ウグ(著)/黒江ゆり子，市橋恵子(翻訳)：慢性疾患の病みの軌跡 - コービンとストラウスによる看護モデル，単行本，医学書院，1995/1</li> </ul> <p>* 上記以外も、講義時に適宜、紹介する。</p>
履修上の注意点及び取扱い	主体的な学習態度で臨むことを期待する。



科目名	急性・療養生活支援看護学演習		
科目コード	M2206	科目ナンバリング	
授業形態	講義・演習	開講時期	1年後期
必修・選択	選択		
単位数	2単位	時間数	45時間
先修条件			
教員名	小倉 久美子・増永 悦子		
実務経験	看護師としての病院実務経験(小倉、増永)から、急性期及び療養生活支援看護の実践的方略を探究できるよう導く。		
オフィスアワー	毎回の授業後30分間(小倉、増永)		
科目概要	<p>【急性期看護】 最新の知見やフィールドワークをもとに、クリティカルケア看護における実践課題、感染管理、地域との連携について討議し、エビデンスに基づく看護実践を探究する。</p> <p>【療養生活支援看護学】 療養生活支援看護学特論で学習した概念・理論を基に、慢性の健康課題をもつ人と家族への、新たな方略を創造する能力を、看護実践の場面をもちいて養う。人が生活する場である地域を、地域包括ケアシステムを踏まえて理解する。その上で、個人と家族、集団を対象に、療養生活に必要な看護技術・教育方法や、看護実践のための方法を学ぶ。その際には、健康レベル(発症から回復期、慢性期、終末期)や多職種との連携・協働の視点を持ち、看護実践能力、教育・研究能力を培う。</p>		
到達目標	<p>【急性期看護】 クリティカルケア看護における臨床上の実践課題を説明できる。 クリティカルケア看護における感染管理の課題を説明できる。 クリティカルケア看護と地域連携との課題を説明できる。 クリティカルケア看護におけるエビデンスに基づく看護実践を考察できる。</p> <p>【療養生活支援看護学】 対象者の生活の場である地域を、地域包括ケアシステムを踏まえて説明できる。 看護実践の場面を通して対象者に必要な看護を、概念・理論を用いて説明できる。 健康レベルの違いや多職種との連携・協働の視点を踏まえて、個人と家族、集団を対象に、療養生活に必要な看護技術・教育方法や、看護実践を考究する。 地域で療養生活をおくる慢性の健康課題をもつ人と家族の倫理的課題を探究する。</p>		
学位授与方針			対応
人間としての尊厳と権利を尊重した倫理観に基づき、看護学の幅広い知識と科学的根拠に裏付けされた看護を実践する能力を有する			○
保健医療チームの一員として多職種と連携・協働し、リーダーシップを発揮する能力を有する			○
ヘルスケアシステムの変革に対応し、組織を管理運営できるマネジメント能力を有する			
地域や臨床現場が抱える、多様な看護実践上の課題解決に向けた研究能力を有する			○
看護専門職を育てる教育的志向を有し、看護学の発展に寄与できる教育能力を有する			
授業計画(回数)	該当する到達目標	内容・事前/事後学習	担当者
1		クリティカルケア看護における実践課題	小倉
2		クリティカルケア看護における実践課題	小倉
3		クリティカルケア看護における感染管理の課題追求	小倉
4		フィールドワークを通して、実践課題の追求	小倉
5		フィールドワークを通して、実践課題の追求	小倉
6		フィールドワークを通して、実践課題の追求	小倉
7		クリティカルケア看護の地域連携における課題の追求	小倉
8		クリティカルケア看護の地域連携における課題の追求	小倉
9		クリティカルケア看護におけるエビデンスに基づく看護実践の探究	小倉

授業計画 (回数)	該当する到達目標	内容・事前/事後学習	担当者
10		クリティカルケア看護におけるエビデンスに基づく看護実践の探究	小倉
11		療養生活支援看護学の対象理解 「病む」こと、「痛む」ことの意味の探求	増永
12		「病む」こと、「痛む」ことの意味の探求	増永
13		「病みの軌跡」理論をもちいた実践への応用	増永
14		「病みの軌跡」理論をもちいた実践への応用	増永
15		療養生活支援看護学における方略 「セルフマネジメント」の実践への応用	増永
16		「セルフマネジメント」の実践への応用	増永
17		療養生活支援看護学の倫理的課題 「自己決定権」「権利擁護」の実践的課題の考察	増永
18		「自己決定権」「権利擁護」の実践的課題の考察	増永
19		これまで学習した概念・理論をもちいた関心領域における看護実践・教育・研究テーマの探求	増永
20		これまで学習した概念・理論をもちいた関心領域における看護実践・教育・研究テーマの探求	増永
21		自己の研究課題の明確化・まとめ、発表	小倉・増永
事前・事後学修		事前学習：テーマに関する疑問点を文献や書物等を用いて調べ授業に臨む。 事後学習：講義・討論等を通して、その疑問に対する考察を深め、発表内容、課題レポートに反映させる。	
評価方法		発表時の発表内容(40%)，課題レポート(40%)，授業への参加度(20%)で評価する。	
課題に対するフィードバック			
教科書		指定しない。	
参考書		必要時配布する。	
履修上の注意点及び取扱い		主体的な学習態度で臨むことを期待する。	

科目名	メンタルヘルス支援看護学特論		
科目コード	M2207	科目ナンバリング	
授業形態	講義	開講時期	1年前期
必修・選択	選択		
単位数	2単位	時間数	30時間
先修条件			
教員名	野村 千文・畠山 和人・佐久間 美里		
実務経験	総合病院での看護師（野村、佐久間）としての実務経験から、認知症高齢者に対するケアの方略を考究できるよう導く。 大学病院での看護師ならびに感染管理認定看護師（畠山）としての実務経験から、認知症高齢者に対する感染症予防対策について考究できるよう導く。		
オフィスアワー	授業後30分間		
科目概要	認知症疾患に関する最新の知見や認知症を伴う高齢者と家族に対するメンタルヘルス支援の現状と課題、研究の動向を理解した上で、地域に暮らす認知症高齢者と家族へのケアマネジメントのありかたについて探究する。		
到達目標	認知症疾患に関する最新の知見を説明できる。 認知症高齢者と家族へのメンタルヘルス支援策について討議できる。 認知症高齢者と家族へのケアマネジメントのありかたについて探究できる。		
学位授与方針			対応
人間としての尊厳と権利を尊重した倫理観に基づき、看護学の幅広い知識と科学的根拠に裏付けされた看護を実践する能力を有する			
保健医療チームの一員として多職種と連携・協働し、リーダーシップを発揮する能力を有する			○
ヘルスケアシステムの変革に対応し、組織を管理運営できるマネジメント能力を有する			
地域や臨床現場が抱える、多様な看護実践上の課題解決に向けた研究能力を有する			○
看護専門職を育てる教育的志向を有し、看護学の発展に寄与できる教育能力を有する			
授業計画 (回数)	該当する到達目標	内容・事前/事後学習	担当者
1		認知症疾患の動向 診断基準、原因疾患、症候、治療、疫学、認知症予防	野村
2		認知症疾患の動向 診断基準、原因疾患、症候、治療、疫学、認知症予防	野村
3		認知症高齢者と家族へのメンタルヘルス支援の状況 アセスメント項目、ケアの視点、ケア提供の場、社会資源の活用、 認知症推進施策	野村
4		認知症高齢者と家族へのメンタルヘルス支援の状況 アセスメント項目、ケアの視点、ケア提供の場、社会資源の活用、 認知症推進施策	野村
5		認知症予防対策に関する研究の動向	野村・佐久間
6		認知症予防対策に関する研究の動向	野村・佐久間
7		認知症高齢者への感染症対策	畠山
8		認知症高齢者への感染症対策	畠山
9		認知症高齢者におけるエンド・オブ・ライフ・ケアのありかた (ACP支援、権利擁護)	野村
10		認知症高齢者におけるエンド・オブ・ライフ・ケアのありかた (ACP支援、権利擁護)	野村
11		地域に暮らす認知症高齢者と家族へのケアマネジメントの実際 (地域におけるケアサポートチーム、多職種連携、 地域包括ケアシステムの現状)	野村
12		地域に暮らす認知症高齢者と家族へのケアマネジメントの実際 (地域におけるケアサポートチーム、多職種連携、 地域包括ケアシステムの現状)	野村
13		認知症高齢者と家族へのメンタルヘルス支援に関する研究の動向	野村・佐久間
14		認知症高齢者と家族へのメンタルヘルス支援に関する研究の動向	野村・佐久間

事前・事後学修	事前学修：テーマ・キーワードに関する文献や事前提示資料等を予習し、疑問をいくつか挙げて授業に臨む 事後学修：講義・討論等を通して、その疑問に対する考察を深め、課題レポートに反映させる
評価方法	課題レポート90%（計3回：コメントを付して返却する）野村2回 畠山1回 授業への参加態度10%（主体性、探求性、協調性、客観性、知的誠実さ等）
課題に対するフィードバック	
教科書	指定なし
参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中島健二他編集：「認知症ハンドブック第2版」、医学書院、2020年</li> <li>・安武綾編著：「認知症plus家族支援」、日本看護協会出版会、2020年</li> <li>・長江弘子監修：「認知症plus意思表示支援」、日本看護協会出版会、2021年</li> <li>・山川みやえ他編：「認知症plus終末期ケアとACP」、日本看護協会出版会、2022年</li> <li>・厚生労働省老健局編：介護現場における感染対策の手引き 第2版 <a href="https://www.mhlw.go.jp/content/12300000/000814179.pdf">https://www.mhlw.go.jp/content/12300000/000814179.pdf</a></li> <li>・大曲貴夫他、編：「感染管理・感染症看護テキスト」、照林社</li> </ul>
履修上の注意点及び取扱い	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学生が主体となって授業を進めるため学修課題を明らかにして授業に臨む。</li> <li>2. 授業は、学生のプレゼンテーションおよびディスカッションを通して学びを深めるため、ディスカッションへの積極的な参加を求める。</li> <li>3. 授業後は、学修内容を振り返り、関心や疑問などについて、自ら文献を活用し、理解を深める。</li> </ol>

科目名	メンタルヘルス支援看護学特論		
科目コード	M2208	科目ナンバリング	
授業形態	講義	開講時期	1年後期
必修・選択	選択		
単位数	2単位	時間数	30時間
先修条件			
教員名	大谷 恵・前川 早苗		
実務経験	精神科病院の看護師（大谷）、専門看護師（前川）としての実務経験から、メンタルヘルス支援看護学（地域精神看護学）の考え方と看護実践のあり方を探求できるよう教授する。		
オフィスアワー	授業後30分間（大谷、前川） メールによる問い合わせ（大谷：m.otani.t@ikc.ac.jp）		
科目概要	地域精神看護学の視点から精神保健医療・看護の歴史、精神保健医療福祉に関する法制度、精神保健医療福祉の動向を踏まえ、メンタルヘルスに問題を抱える人の健康管理を支援するためのヘルスケアシステムの現状や課題を探求する。また、メンタルヘルス上の問題を抱える個人、家族、集団に対して潜在的援助ニーズを把握し、精神保健看護活動を展開するために必要なさまざまな問題のアセスメントの視点と技法を学ぶ。これらを通して、地域精神保健医療福祉における看護職の役割や機能についての理解を深める。		
到達目標	<p>精神保健医療福祉の歴史の変遷をふまえて、精神保健医療福祉に関する制度や体制の現状と課題を分析することができる。</p> <p>人間の身体・認知・感情・行動・対人関係に現れるメンタルヘルス上の問題のメカニズムおよびアセスメントの視点について説明できる。</p> <p>メンタルヘルス上の問題を抱えた人々（個人・家族・集団）へのさまざまな看護の展開方法について説明できる。</p> <p>地域精神保健医療福祉の課題と今後の展望ならびに看護職に期待される役割について述べることができる。</p>		
学位授与方針			対応
人間としての尊厳と権利を尊重した倫理観に基づき、看護学の幅広い知識と科学的根拠に裏付けされた看護を実践する能力を有する			
保健医療チームの一員として多職種と連携・協働し、リーダーシップを発揮する能力を有する			○
ヘルスケアシステムの変革に対応し、組織を管理運営できるマネジメント能力を有する			○
地域や臨床現場が抱える、多様な看護実践上の課題解決に向けた研究能力を有する			○
看護専門職を育てる教育的志向を有し、看護学の発展に寄与できる教育能力を有する			
授業計画 (回数)	該当する到達目標	内容・事前/事後学習	担当者
1		精神看護学領域の研究の動向・精神保健医療福祉の歴史・現状	大谷
2		精神看護実践及び研究の諸概念及び理論	大谷
3		精神保健福祉分野における法的・倫理的問題と看護職の役割	大谷
4		精神機能の評価の視点と方法	大谷
5		精神機能の評価の視点と方法	大谷
6		メンタルヘルス上の問題を抱える対象への危機介入・ケアマネジメント	前川
7		メンタルヘルス上の問題を抱える対象への危機介入・ケアマネジメント	前川
8		精神障害を有する対象者と家族支援モデル等	前川
9		地域で生活する人々のメンタルヘルスと支援	大谷
10		地域で生活する人々のメンタルヘルスと支援	大谷
11		地域における依存症患者・家族への支援	大谷
12		地域精神保健における多職種連携・協働	大谷
13		災害時におけるメンタルヘルスと支援	大谷

授業計画 (回数)	該当する 到達目標	内容・事前/事後学習	担当者
14		地域精神保健医療福祉における問題点と今後の課題	大谷
事前・事後学修		事前学修：テーマ・キーワードに関する文献や事前提示資料等を予習し、疑問をいくつか挙げて授業に臨む 事後学修：講義・討論等を通して、その疑問に対する考察を深め、課題レポートに反映させる	
評価方法		プレゼンテーション(30%)、授業への参加状況(30%)、課題レポート(40%：コメントを付して返却する)	
課題に対する フィードバック			
教科書		指定なし。	
参考書		適宜紹介する。テーマに沿った文献や資料は各自で収集し、参照する。	
履修上の注意点 及び取扱い		1．授業内容に関する文献等を活用し事前学修を行い、授業に臨む。 2．授業は、学生のプレゼンテーションおよびディスカッションを中心に行う。自分の考えを言葉で表現すること、他者の考えを聞くことを通して、地域精神看護学領域の学びを深めるので、積極的な参加を求める。 3．授業後は、学修内容を振り返り、関心や疑問などについて、自ら文献を活用し、理解を深める。	

科目名	メンタルヘルス支援看護学演習		
科目コード	M2209	科目ナンバリング	
授業形態	講義・演習	開講時期	1年後期
必修・選択	選択		
単位数	2単位	時間数	45時間
先修条件			
教員名	野村 千文・大谷 恵・榊原 久孝・佐久間 美里		
実務経験	総合病院の看護師（野村、佐久間）、精神科病院の看護師（大谷）としての実務経験から、メンタルヘルス支援を必要とする対象に必要な看護実践のありようを探求できるよう教授する。		
オフィスアワー	授業後30分間（野村、大谷、榊原、佐久間） メールによる問い合わせ（野村：c.nomura.t@ikc.ac.jp 大谷：m.otani.t@ikc.ac.jp 榊原：h.sakakibara.t@ikc.ac.jp、 佐久間：m.sakuma.t@ikc.ac.jp）		
科目概要	メンタルヘルス支援を必要とする対象（当事者、家族、集団など）に影響を与える要因について文献検討および討議を行い、現状の課題を理解する。その後、当該対象の暮らす地域にてフィールドワークを行い、メンタルヘルス支援のありかたについて考察する。		
到達目標	メンタルヘルス支援を必要とする対象（当事者、家族、集団など）を取り巻く社会的背景の動向について説明できる。 文献検討や地域におけるフィールドワークを通して、メンタルヘルス支援のありかたについて考察できる。		
学位授与方針			対応
人間としての尊厳と権利を尊重した倫理観に基づき、看護学の幅広い知識と科学的根拠に裏付けされた看護を実践する能力を有する			○
保健医療チームの一員として多職種と連携・協働し、リーダーシップを発揮する能力を有する			○
ヘルスケアシステムの変革に対応し、組織を管理運営できるマネジメント能力を有する			
地域や臨床現場が抱える、多様な看護実践上の課題解決に向けた研究能力を有する			○
看護専門職を育てる教育的志向を有し、看護学の発展に寄与できる教育能力を有する			
授業計画 (回数)	該当する到達目標	内容・事前/事後学習	担当者
1		オリエンテーション;対象の選定、文献検討の方法について	榊原・野村
2		地域における認知症の当事者と家族への支援の現状と課題	野村
3		アルコール依存症患者・家族支援における地域との連携の現状と課題	大谷
4		文献検討結果報告（発表・討議）	榊原・野村・大谷・佐久間
5		文献検討結果報告（発表・討議）	榊原・野村・大谷・佐久間
6		文献検討結果報告（発表・討議）	榊原・野村・大谷・佐久間
7		フィールドワークの方法について フィールドワークの目標設定、計画立案、依頼方法など	野村・大谷
8		フィールドワークの目標設定、計画立案、依頼方法など	野村・大谷
9		フィールドワークの目標設定、計画立案、依頼方法など	野村・大谷
10		フィールドワークの実施（演習）	榊原・野村・大谷・佐久間
11		フィールドワークの実施（演習）	榊原・野村・大谷・佐久間
12		フィールドワークの実施（演習）	榊原・野村・大谷・佐久間
13		フィールドワーク：中間報告（発表・討議）	榊原・野村・大谷・佐久間
14		フィールドワーク：中間報告（発表・討議）	榊原・野村・大谷・佐久間
15		フィールドワーク：中間報告（発表・討議）	榊原・野村・大谷・佐久間

授業計画 (回数)	該当する到達目標	内容・事前/事後学習	担当者
16		フィールドワーク：まとめ報告（発表・討議）	榊原・野村・大谷・佐久間
17		フィールドワーク：まとめ報告（発表・討議）	榊原・野村・大谷・佐久間
18		フィールドワーク：まとめ報告（発表・討議）	榊原・野村・大谷・佐久間
19		メンタルヘルス支援のありかた （フィールドワークと文献検討結果より）（発表・討議）	榊原・野村・大谷・佐久間
20		メンタルヘルス支援のありかた （フィールドワークと文献検討結果より）（発表・討議）	榊原・野村・大谷・佐久間
21		メンタルヘルス支援のありかた （フィールドワークと文献検討結果より）（発表・討議）	榊原・野村・大谷・佐久間
事前・事後学修		事前学修：テーマ・キーワードに関する文献や事前提示資料等を予習し、疑問をいくつか挙げて授業に臨む 事後学修：講義・討論等を通して、その疑問に対する考察を深め、課題レポートに反映させる	
評価方法		プレゼンテーション(60%)、授業への参加状況(30%)、課題レポート(10%：コメントを付して返却する)	
課題に対するフィードバック			
教科書		指定なし。	
参考書		適宜紹介する。テーマに沿った文献や資料は各自で収集し、参照する。	
履修上の注意点及び取扱い		1．学生が主体となって授業を進めるため、学修課題を明らかにして授業に臨む。 2．授業は、学生のプレゼンテーションおよびディスカッションを通して、学びを深めるため、ディスカッションへの積極的な参加を求める。 3．授業後は、学修内容を振り返り、関心や疑問などについて、自ら文献を活用し、理解を深める。	



科目名	がん療養生活支援看護学特論		
科目コード	M2210	科目ナンバリング	
授業形態	講義	開講時期	1年前期
必修・選択	選択		
単位数	2単位	時間数	30時間
先修条件			
教員名	安藤 詳子・増永 悦子		
実務経験	総合病院での看護師経験（安藤、増永）から実践的な理論の活用を導く。		
オフィスアワー	授業後30分間 及びメール対応可 （安藤：s.ando.t@ikc.ac.jp）（増永：e.masunaga.t@ikc.ac.jp）		
科目概要	がんとともに生きている人とその家族は、健康レベルの変化で、本来の生活の場(居宅)の地域だけでなく、病院・施設などの多様な場で療養生活を送っている。対象者の療養の場について、地域包括ケアシステムや多職種との連携・協働を踏まえたうえで、対象者が主体的に健康課題に取り組むために必要な理論・概念を学び、新たな方略の創造に繋がる能力を培うための看護実践能力、教育・研究能力を養う。		
到達目標	がん看護分野において活用されている主な理論について説明できる。 臨床事例について、理論を活用してアセスメントし、理論を実践に応用できる。		
学位授与方針			対応
人間としての尊厳と権利を尊重した倫理観に基づき、看護学の幅広い知識と科学的根拠に裏付けされた看護を実践する能力を有する			
保健医療チームの一員として多職種と連携・協働し、リーダーシップを発揮する能力を有する			
ヘルスケアシステムの変革に対応し、組織を管理運営できるマネジメント能力を有する			
地域や臨床現場が抱える、多様な看護実践上の課題解決に向けた研究能力を有する			○
看護専門職を育てる教育的志向を有し、看護学の発展に寄与できる教育能力を有する			
授業計画 (回数)	該当する到達目標	内容・事前/事後学習	担当者
1		病むことの意味、臨床学的考察	増永・安藤
2		慢性期における痛みの哲学的考察	増永・安藤
3		『病みの軌跡』理論の活用	増永・安藤
4		生涯発達に関する理論	安藤・増永
5		危機介入に関する理論と臨床への応用	安藤・増永
6		危機介入に関する理論と臨床への応用	安藤・増永
7		ストレスコーピングに関する理論と臨床への応用	安藤・増永
8		ストレスコーピングに関する理論と臨床への応用	安藤・増永
9		ボディイメージ・自己概念に関する理論と臨床への応用	安藤・増永
10		ボディイメージ・自己概念に関する理論と臨床への応用	安藤・増永
11		自己効力感に関する理論と活用	安藤・増永
12		不確かさに関する理論と活用	安藤・増永
13		全体性パラダイムに基づく理論と活用	安藤・増永
14		がん看護領域における研究の動向と課題	安藤
事前・事後学修	事前：単元の割り当てられた課題についてレポートを用意してプレゼンする。 事後：討論を通して考察を深め、レポートとしてまとめる。 事前・事後レポートは授業内でフィードバックする。		
評価方法	プレゼンテーションや討議（40%）、レポート内容（60%）、授業への参加態度から総合的に評価する。		

課題に対する フィードバック	
教科書	がん看護コアカリキュラム 日本版：医学書院、2017
参考書	Pierre Woog, 黒江ゆり子訳：慢性疾患の病みの軌跡、医学書院、1995 Mave Salter, 前川厚子：ボディイメージと看護、医学書院、1992 アーサー・クラインマン、江口重幸他訳：病いの語り、誠信書房、1996 遠藤恵美子：希望としてのがん看護、医学書院、2001 講義の中で、その都度紹介する。
履修上の注意点 及び取扱い	がん看護専攻教育課程選択の場合は、がん療養生活支援看護学実習に進むための先修条件となります。 主体的な学習態度で臨むことを期待する。

科目名	がん療養生活支援看護学特論		
科目コード	M2211	科目ナンバリング	
授業形態	講義	開講時期	1年後期
必修・選択	選択		
単位数	2単位	時間数	30時間
先修条件			
教員名	安藤 詳子・下平 唯子		
実務経験	総合病院での看護師経験（安藤、下平）、がん看護専攻教育課程プログラム作成・指導の経験（安藤、下平）から、がんサバイバーへの援助の在り方を導く。		
オフィスアワー	授業後30分間 及びメール対応可（安藤：s.ando.t@ikc.ac.jp） （下平：y.shimodaira.t@ikc.ac.jp）		
科目概要	各治療過程にあるがんサバイバーとその家族への支援の在り方を探究し、サバイバーとその家族が地域で自分らしい過ごし方ができるよう支援するための援助のありかたの基盤を培う。同時に、支援者としての自らのストレスへの対処方法について検討し、支援者としての資質を考究する。		
到達目標	<p>診断から治療選択の各期にあるがん患者とその家族の置かれている現状と課題を考究できる。</p> <p>がんサバイバーが置かれている様々な状況と課題を理解し的確な援助の在り方を検討できる。</p> <p>サバイバーと家族を支援する看護職が自らのストレスを自覚し対処するための方略を身に付ける。</p>		
学位授与方針			対応
人間としての尊厳と権利を尊重した倫理観に基づき、看護学の幅広い知識と科学的根拠に裏付けされた看護を実践する能力を有する			
保健医療チームの一員として多職種と連携・協働し、リーダーシップを発揮する能力を有する			○
ヘルスケアシステムの変革に対応し、組織を管理運営できるマネジメント能力を有する			
地域や臨床現場が抱える、多様な看護実践上の課題解決に向けた研究能力を有する			
看護専門職を育てる教育的志向を有し、看護学の発展に寄与できる教育能力を有する			
授業計画 (回数)	該当する到達目標	内容・事前/事後学習	担当者
1		診断治療過程にある患者・家族の現状と支援	下平
2		治療選択に臨む患者・家族の現状と支援	下平
3		セクシャリティとは、課題と援助、事例検討	安藤
4		セクシャリティとは、課題と援助、事例検討	安藤
5		サイコオンコロジーと看護への活用、事例検討	安藤
6		サイコオンコロジーと看護への活用、事例検討	安藤
7		がんサバイバーと家族支援モデル、事例検討	安藤
8		がんサバイバーと家族支援モデル、事例検討	安藤
9		AYA世代がん患者への援助、事例検討	下平
10		AYA世代がん患者への援助、事例検討	下平
11		がん患者への就労支援	下平
12		がん医療と倫理的課題、事例検討	安藤
13		がん医療と倫理的課題、事例検討	安藤
14		がん看護に携わる看護師のストレスコーピング	安藤
事前・事後学修	<p>事前：単元に割り当てられた課題について関連文献・書籍の精読とプレゼンテーションの準備</p> <p>事後：討論を通して考察を深め、レポートとしてまとめる。</p> <p>事前事後レポートは、授業内でフィードバックする。</p>		

評価方法	プレゼンテーションや討議（40%）、レポート内容（60%）、授業への参加態度から総合的に評価する。
課題に対するフィードバック	
教科書	がん看護コアカリキュラム 日本版：医学書院、2017
参考書	AYA世代がんサポートガイド：金原出版、2018 近藤まゆみ：臨床がんサバイバーシップ、生き抜く力を高める、仲村書林、2015
履修上の注意点及び取扱い	がん看護専攻教育課程選択の場合は、がん療養生活支援看護学実習に進むための先修条件となります。 主体的な学習態度で臨むことを期待する。

科目名	がん療養生活支援看護学演習		
科目コード	M2212	科目ナンバリング	
授業形態	講義・演習	開講時期	1年後期
必修・選択	選択		
単位数	2単位	時間数	45時間
先修条件	がん療養生活支援看護学特論 ・ を履修すること		
教員名	安藤 詳子・下平 唯子・増永 悦子		
実務経験	総合病院での看護師経験から（安藤、下平、増永）がんとともに生きる人々への実践的な援助方略を指導する。		
オフィスアワー	授業後30分間 及び随時メール対応可 （安藤：s.ando.t@ikc.ac.jp）（下平：y.shimodaira.t@ikc.ac.jp） （増永：e.masunaga.t@ikc.ac.jp）		
科目概要	特論 ・ で学習した概念・理論をもとに、地域の看護実践の場への参画を通し、がんと共に生活する人と家族への新たな方略を創造する能力を培う。		
到達目標	病むこと、痛むことの意味の追求ができる。 がん療養生活者の置かれている倫理的課題について、考究できる。 人が生活する場である地域を、地域包括ケアシステムを踏まえて理解し、がんとともに生きている人々とその家族が地域で自分らしく生活するための方略を、フィールドワークを通して導出できる。		
学位授与方針			対応
人間としての尊厳と権利を尊重した倫理観に基づき、看護学の幅広い知識と科学的根拠に裏付けされた看護を実践する能力を有する			○
保健医療チームの一員として多職種と連携・協働し、リーダーシップを発揮する能力を有する			○
ヘルスケアシステムの変革に対応し、組織を管理運営できるマネジメント能力を有する			
地域や臨床現場が抱える、多様な看護実践上の課題解決に向けた研究能力を有する			○
看護専門職を育てる教育的志向を有し、看護学の発展に寄与できる教育能力を有する			
授業計画 (回数)	該当する到達目標	内容・事前/事後学習	担当者
1		がん療養生活者の対象理解 「病む」こと、「痛む」ことの意味の探求	安藤・下平・増永
2		「病む」こと、「痛む」ことの意味の探求	安藤・下平・増永
3		「病む」こと、「痛む」ことの意味の探求	安藤・下平・増永
4		「病む」こと、「痛む」ことの意味の探求	安藤・下平・増永
5		「病む」こと、「痛む」ことの意味の探求	安藤・下平・増永
6		がん療養生活者の置かれている倫理的課題 「自己決定権」「権利擁護」の実践的課題の考察	安藤・下平・増永
7		「自己決定権」「権利擁護」の実践的課題の考察	安藤・下平・増永
8		「自己決定権」「権利擁護」の実践的課題の考察	安藤・下平・増永
9		「自己決定権」「権利擁護」の実践的課題の考察	安藤・下平・増永
10		「自己決定権」「権利擁護」の実践的課題の考察	安藤・下平・増永
11		既習の概念・理論をもちいた関心領域における フィールドでの看護実践・教育・研究テーマの探求	安藤・下平・増永
12		フィールドでの看護実践・教育・研究テーマの探求	安藤・下平・増永
13		フィールドでの看護実践・教育・研究テーマの探求	安藤・下平・増永
14		フィールドでの看護実践・教育・研究テーマの探求	安藤・下平・増永
15		フィールドでの看護実践・教育・研究テーマの探求	安藤・下平・増永
16		フィールドでの看護実践・教育・研究テーマの探求	安藤・下平・増永

授業計画 (回数)	該当する 到達目標	内容・事前/事後学習	担当者
17		フィールドでの看護実践・教育・研究テーマの探求	安藤・下平・増永
18		フィールドでの看護実践・教育・研究テーマの探求	安藤・下平・増永
19		フィールドでの看護実践・教育・研究テーマの探求	安藤・下平・増永
20		フィールドでの看護実践・教育・研究テーマの探求	安藤・下平・増永
21		自己の研究課題の明確化・まとめ、発表	安藤・下平・増永
事前・事後学修		事前：各単元のテーマに関する予備情報を収集し、問題意識をもって臨む 事後：フィールドワークでの看護実践・教育・研究テーマの探求のプロセス、成果を論理的にまとめる。 事後レポートはコメントを付して返却する。	
評価方法		地域の看護実践の場への参画状況、他演習への参加状況(70%) レポート(30%)	
課題に対する フィードバック			
教科書		なし、適宜配付する。	
参考書		適宜紹介する	
履修上の注意点 及び取扱い		主体的な学習態度で臨むことを期待する。	

科目名	がん療養生活支援看護学特論		
科目コード	M2213	科目ナンバリング	
授業形態	講義	開講時期	1年後期
必修・選択	選択		
単位数	2単位	時間数	30時間
先修条件			
教員名	安藤 詳子・加藤 貴之・伊藤 雄二・松山 恭士・野中 健一・武鹿 良規・嶋津 光真・箕島 謙一・加藤 俊男・山田 昌秀		
実務経験	総合病院での看護師（安藤）、病理（加藤俊男）・臨床医（伊藤、松山、野中、武鹿、嶋津、箕島、加藤、山田）経験より、がん専門領域の最新の知見について導く。		
オフィスアワー	授業後30分間		
科目概要	がんの分子生物学、遺伝学を含む病態生理学全般を学び、がんの最新の診断・治療法に関する専門的知識を修得・理解し、診断治療に伴う看護上の課題について考究する。		
到達目標	<p>がんの病理学的概念や発がんのメカニズムについての理解、主な腫瘍の疫学・病態生理学的理解を基盤として、各腫瘍の最新の診断治療の動向と今後の課題を把握できる。</p> <p>がん診断治療における看護上の課題を見出し、がん看護専門看護師の役割について考査できる。</p>		
学位授与方針			対応
人間としての尊厳と権利を尊重した倫理観に基づき、看護学の幅広い知識と科学的根拠に裏付けされた看護を実践する能力を有する			
保健医療チームの一員として多職種と連携・協働し、リーダーシップを発揮する能力を有する			
ヘルスケアシステムの変革に対応し、組織を管理運営できるマネジメント能力を有する			
地域や臨床現場が抱える、多様な看護実践上の課題解決に向けた研究能力を有する			
看護専門職を育てる教育的志向を有し、看護学の発展に寄与できる教育能力を有する			
授業計画 (回数)	該当する到達目標	内容・事前/事後学習	担当者
1		病理学の歴史にみる癌、癌の病理学的概念、発癌の分子メカニズム	加藤（俊）
2		がんの疫学・病態生理と最新の診断治療 呼吸器系腫瘍：肺がん、悪性胸膜中脾腫	伊藤
3		呼吸器系腫瘍：肺がん、悪性胸膜中脾腫	伊藤
4		上部消化管腫瘍：食道がん、胃がん	松山
5		胆・肝・膵腫瘍：肝臓がん、胆道がん、すい臓がん	松山
6		下部消化管腫瘍：大腸がん	野中
7		乳腺腫瘍	武鹿
8		乳腺腫瘍	武鹿
9		婦人科系腫瘍：子宮頸がん、卵巣がん	嶋津
10		泌尿器系腫瘍：腎細胞がん、膀胱がん、上部尿路がん、前立腺がん	箕島
11		脳腫瘍、脳転移	加藤（貴）
12		造血器系腫瘍：白血病、リンパ腫、骨髄腫	山田
13		造血器系腫瘍：白血病、リンパ腫、骨髄腫	山田
14		がん診断治療における専門看護師の役割	安藤
事前・事後学修	<p>事前：各単元のテーマに関する病態生理と最新の診断治療法について学修し、疑問点をいくつか挙げておく。</p> <p>事後：ディスカッションした内容をまとめ、考察を深めて事後レポートとして提出する。</p>		

評価方法	授業への参加態度（討論への積極的参加、知的好奇心、討議等：（40％）、レポート内容（60％）、から総合的に評価する。 最終レポート課題：がん診断治療におけるがん看護専看護師の役割
課題に対するフィードバック	
教科書	なし、資料は適宜配付する
参考書	国立がんセンター内科レジデント（編）：がん診療レジデントマニュアル（最新版）、医学書院 適宜紹介する。
履修上の注意点及び取扱い	がん療養生活支援看護学実習 - に進むための先修条件となります。 主体的な学習態度で臨むことを期待する。



科目名	がん療養生活支援看護学実践論		
科目コード	M2214	科目ナンバリング	
授業形態	講義	開講時期	1年前期
必修・選択	選択		
単位数	2単位	時間数	30時間
先修条件			
教員名	安藤 詳子・小倉 久美子・遠藤 貴子・穠山 真理・矢野 和美・岩井 美世子・鴨川 七重		
実務経験	総合病院における看護師（安藤）、認定看護管理者（小倉）、がん看護専門看護師（遠藤、穠山、矢野、岩井）、遺伝看護専門看護師（鴨川）経験から、より専門的な視点で課題を導く。		
オフィスアワー	授業後30分間（遠藤、穠山、岩井、矢野、鴨川） および随時メール対応可 安藤：s.ando.t@ikc.ac.jp 小倉：k.ogura.t@ikc.ac.jp		
科目概要	高度先進医療の発展によるがん診断・治療への恩恵だけでなく、同時に派生してくる倫理的問題をはじめ様々な諸問題を包括的に把握したうえで、がん看護の動向のなかで自らの実践的がん看護のありようを考究する。		
到達目標	がん手術療法・放射線療法・薬物療法・免疫療法・ホルモン療法・ゲノム医療とその看護について最新の動向を把握し、展望と課題について考究できる。 有害事象を有する対象者の包括的マネジメントの実際を検討できる。 抗がん剤曝露対策の基本を理解し、療養の場における被曝予防体制の構築を検討できる。		
学位授与方針			対応
人間としての尊厳と権利を尊重した倫理観に基づき、看護学の幅広い知識と科学的根拠に裏付けされた看護を実践する能力を有する			
保健医療チームの一員として多職種と連携・協働し、リーダーシップを発揮する能力を有する			
ヘルスケアシステムの変革に対応し、組織を管理運営できるマネジメント能力を有する			
地域や臨床現場が抱える、多様な看護実践上の課題解決に向けた研究能力を有する			
看護専門職を育てる教育的志向を有し、看護学の発展に寄与できる教育能力を有する			
授業計画 (回数)	該当する到達目標	内容・事前/事後学習	担当者
1		がん治療と看護について がん手術療法・オンコロジーエマージェンシー	安藤・小倉
2		放射線療法の最前線	遠藤
3		放射線療法の最前線	遠藤
4		放射線療法と看護	遠藤
5		放射線療法と看護	遠藤
6		がん薬物療法の最前線と看護	穠山
7		有害事象を有する対象者の包括的マネジメント	穠山
8		有害事象を有する対象者の包括的マネジメント	穠山
9		免疫療法・ホルモン療法と看護	岩井
10		免疫療法・ホルモン療法と看護	岩井
11		抗がん剤曝露予防とCNSの役割	矢野
12		抗がん剤曝露予防とCNSの役割	矢野
13		ゲノム医療と看護	鴨川
14		ゲノム医療と看護	鴨川

事前・事後学修	事前学習：テーマ・キーワードに関する文献や事前提示資料等を予習し、疑問をいくつか挙げて授業に臨む。 事後学習：講義・討論等を通して、その疑問に対する考察を深め、最終レポートに反映させる。
評価方法	ミニレポート 60%：講師ごとに 最終レポート 20%：がん治療と看護におけるCNSの役割について 授業への参加度20%：主体性、探究性、協調性、客観性、知的誠実さ等
課題に対するフィードバック	
教科書	がん薬物療法における職業性曝露対策ガイドライン 2019年版，一般社団法人日本がん看護学会
参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・松尾宏一他：がん薬物療法のひきだし 腫瘍薬学の基本から応用まで，医学書院，2020.</li> <li>・佐藤禮子：がん化学療法・バイオセラピー看護実践ガイドライン，医学書院，2009</li> <li>・抗悪性腫瘍薬の院内取扱い指針 抗がん薬調製マニュアル 第4版，金原出版</li> <li>・日本がん看護学会著：見てわかる がん薬物療法における曝露対策 第2版，医学書院，2020</li> <li>・祖父江由紀子他編：がん放射線療法ケアガイド、中山書店、2019</li> <li>・有森直子・溝口満子編著「遺伝/ゲノム看護」医歯薬出版株式会社、2018</li> <li>・中込さと子/監「基礎から学ぶ遺伝看護学」羊土社、2019</li> </ul>
履修上の注意点及び取扱い	がん療養生活支援看護学実習 - へ進むための先修条件となります。 主体的な学習態度で臨むことを期待する。

科目名	がん療養生活支援看護学実践論		
科目コード	M2215	科目ナンバリング	
授業形態	講義	開講時期	1年前期
必修・選択	選択		
単位数	2単位	時間数	30時間
先修条件			
教員名	安藤 詳子		
実務経験	総合病院での看護師経験・がん看護専攻教育課程プログラム作成・指導の経験（安藤）から緩和ケアの基本を導く。		
オフィスアワー	授業後30分間、および随時メール対応可 s.ando.t@ikc.ac.jp		
科目概要	緩和ケアに特定専門領域を焦点化し、緩和医療の歴史的発展の経緯をふまえ、現代における課題を明確にしたうえで、がんによる苦痛症状および苦悩を包括的に理解し、エビデンスに基づいてキュアとケアを統合し適切に援助できる方略を学ぶ。		
到達目標	緩和医療の歴史的発展の経緯をふまえ、現代における課題を明確にできる。 がん患者の体験する苦痛や苦悩について理解し、エビデンスに基づいたキュアとケアを統合した適切な援助について考察できる。 家族のグリーフワークについて理解し、End of Life Careの在り方を探究できる。		
学位授与方針			対応
人間としての尊厳と権利を尊重した倫理観に基づき、看護学の幅広い知識と科学的根拠に裏付けされた看護を实践する能力を有する			
保健医療チームの一員として多職種と連携・協働し、リーダーシップを発揮する能力を有する			○
ヘルスケアシステムの変革に対応し、組織を管理運営できるマネジメント能力を有する			
地域や臨床現場が抱える、多様な看護実践上の課題解決に向けた研究能力を有する			
看護専門職を育てる教育的志向を有し、看護学の発展に寄与できる教育能力を有する			
授業計画 (回数)	該当する 到達目標	内容・事前/事後学習	担当者
1		緩和ケアの概念と歴史、諸外国の緩和ケアの現状	安藤
2		我が国における緩和医療の発展	安藤
3		緩和ケアチームの役割と機能	安藤
4		患者・家族のトータルペイン 社会的苦痛の理解とケア、事例検討	安藤
5		社会的苦痛の理解とケア、事例検討	安藤
6		霊的苦痛の理解と援助、事例検討（窪寺・村田理論）	安藤
7		霊的苦痛の理解と援助、事例検討（窪寺・村田理論）	安藤
8		ケアリングの实践（事例検討）	安藤
9		がん患者に対する現象学的アプローチ、事例検討	安藤
10		がん患者に対する現象学的アプローチ、事例検討	安藤
11		エンドオブライフケア/家族のグリーフケア、事例検討	安藤
12		エンドオブライフケア/家族のグリーフケア、事例検討	安藤
13		在宅ホスピスケア/地域連携による終末期医療/ACP	安藤
14		在宅ホスピスケア/地域連携による終末期医療/ACP	安藤
事前・事後学修	事前：単元に割り当てられた課題について関連文献・書籍の精読とプレゼンテーションの準備 事後：討論を通して考察を深め、レポートとしてまとめる。 事前事後レポートは、授業内でフィードバックする。		

評価方法	プレゼンテーションや討議（40%）、レポート内容（60%）、授業への参加態度から総合的に評価する。
課題に対するフィードバック	
教科書	がん看護コアカリキュラム 日本版：医学書院、2017
参考書	日本緩和医療学会による症状ガイドライン その都度、紹介する。
履修上の注意点及び取扱い	がん療養生活支援看護学実習 - へ進むための先修条件となります。 主体的な学習態度で臨むことを期待する。

科目名	がん療養生活支援看護学実践論		
科目コード	M2216	科目ナンバリング	
授業形態	講義	開講時期	1年後期
必修・選択	選択		
単位数	4単位	時間数	60時間
先修条件			
教員名	安藤 詳子・下平 唯子・岩井 美世子		
実務経験	総合病院での看護師経験・がん看護専攻教育課程プログラム作成・指導の経験（安藤、下平）、がん看護専門看護師としての経験（岩井）から、苦痛症状に対する適切な援助方法を導く。		
オフィスアワー	授業後30分間、および随時メール対応可 安藤：s.ando.t@ikc.ac.jp 下平：y.shimodaira.t@ikc.ac.jp		
科目概要	緩和ケアの中でも症状マネジメントに焦点を当て、がん患者の体験する様々な苦痛症状に対し、エビデンスに基づいてキュアとケアを統合し適切に援助できる方略を学ぶ。まとめとして緩和ケアにおけるがん看護専門看護師の責務と役割について探究する。		
到達目標	<p>がん患者の症状マネジメントについて、症状の発現機序を理解しアセスメント・アプローチ方法について検討できる。</p> <p>緩和ケアを必要としている患者・家族へのQOLの維持向上に向けた援助方法を検討できる。</p> <p>緩和ケアにおけるがん看護専門看護師の役割（特に高度実践、調整/倫理調整コンサルテーション等）の重要性を、事例を通して学び、今後の自己の課題を明確にできる。</p>		
学位授与方針			対応
人間としての尊厳と権利を尊重した倫理観に基づき、看護学の幅広い知識と科学的根拠に裏付けされた看護を実践する能力を有する			
保健医療チームの一員として多職種と連携・協働し、リーダーシップを発揮する能力を有する			○
ヘルスケアシステムの変革に対応し、組織を管理運営できるマネジメント能力を有する			
地域や臨床現場が抱える、多様な看護実践上の課題解決に向けた研究能力を有する			
看護専門職を育てる教育的志向を有し、看護学の発展に寄与できる教育能力を有する			
授業計画 (回数)	該当する到達目標	内容・事前/事後学習	担当者
1		がん患者の症状マネジメントモデル	安藤
2		がん性疼痛/メカニズムとアセスメント、事例検討	安藤
3		がん性疼痛/メカニズムとアセスメント、事例検討	安藤
4		倦怠感/メカニズムとアセスメント、事例検討	安藤
5		倦怠感/メカニズムとアセスメント、事例検討	安藤
6		消化器症状/メカニズムとアセスメント	安藤
7		消化器症状/メカニズムとアセスメント	安藤
8		胸腹水/メカニズムとアセスメント	安藤
9		胸腹水/メカニズムとアセスメント	安藤
10		呼吸困難/メカニズムとアセスメント	安藤
11		呼吸困難/メカニズムとアセスメント	安藤
12		骨メタ/メカニズムとアセスメント	安藤
13		ケモブレイン/メカニズムとアセスメント	安藤
14		不安と抑うつ/メカニズムとアセスメント	安藤
15		不安と抑うつ/メカニズムとアセスメント	安藤

授業計画 (回数)	該当する到達目標	内容・事前/事後学習	担当者
16		せん妄/メカニズムとアセスメント	安藤
17		せん妄/メカニズムとアセスメント	安藤
18		セデーション/事例検討	安藤
19		がん患者へのQOL支援/事例検討	安藤
20		がん患者へのQOL支援/事例検討	安藤
21		補完・代替療法：漢方医学と鍼灸	下平
22		緩和ケアにおける困難事例への高度実践/事例検討	岩井
23		緩和ケアにおける困難事例への高度実践/事例検討	岩井
24		緩和ケアにおけるCNSの調整・倫理調整役割/事例検討	岩井
25		緩和ケアにおけるCNSの調整・倫理調整役割/事例検討	岩井
26		緩和ケアにおけるコンサルテーション活動について/事例検討	岩井
27		緩和ケアにおけるコンサルテーション活動について/事例検討	岩井
28		緩和ケアにおけるがん看護専門看護師の責務と役割	安藤
事前・事後学修		事前：単元に割り当てられた課題について関連文献・書籍の精読とプレゼンテーションの準備 事後：討論を通して考察を深め、レポートとしてまとめる。 事前事後レポートは、授業内でフィードバックする。	
評価方法		プレゼンテーションや討議（40%）、レポート内容（60%）、授業への参加態度から総合的に評価する。	
課題に対するフィードバック			
教科書		がん看護コアカリキュラム 日本版：医学書院、2017	
参考書		日本緩和医療学会による症状ガイドライン 講義の中でその都度、紹介する。	
履修上の注意点及び取扱い		がん療養生活支援看護学実習 - に進むための先修条件となります。 主体的な学習態度で臨むことを期待する。	

科目名	がん療養生活支援看護学実習		
科目コード	M2217	科目ナンバリング	
授業形態	実習	開講時期	1年後期
必修・選択	選択		
単位数	2単位	時間数	90時間
先修条件	フィジカルアセスメント・病態生理学特論・コンサルテーション論・がん療養生活支援看護学特論 - ・がん療養生活支援看護学実践論 - を履修し修得していること。		
教員名	安藤 詳子・下平 唯子・岩井 美世子		
実務経験	総合病院での看護師経験・がん看護専攻教育課程プログラム作成・指導の経験（安藤、下平）、がん看護専門看護師としての経験（岩井）から実習を通して専門看護師として必要な実践力を導く。		
オフィスアワー	随時メール対応可 安藤：s.ando.t@ikc.ac.jp 下平：y.shimodaira.t@ikc.ac.jp		
科目概要	がん患者と家族の疾病・療養上の問題に対して、入院ケアから在宅ケアまでエビデンスに基づく高度な専門的知識・技術・的確な臨床判断を用いて、ケアとキュアを融合した質の高い看護援助の実践および看護援助法の開発ができるような能力を段階的に身に付ける。		
到達目標	第 段階は、先駆的ながん医療を行っている地元の総合病院において、がん治療専門医のもとに“がんの診断・治療に伴う臨床判断及び身体管理”のあり方について体験する。そのうえで、がん看護に携わっている経験豊かな認定看護師等の助言のもと、がん患者の病態・フィジカルアセスメント・症状マネジメントや薬剤調整等のキュアに関する知識を深め、がん看護専門看護師としての的確な臨床判断能力や患者に適した援助方法の開発の基礎的能力を培う。		
学位授与方針			対応
人間としての尊厳と権利を尊重した倫理観に基づき、看護学の幅広い知識と科学的根拠に裏付けされた看護を実践する能力を有する			
保健医療チームの一員として多職種と連携・協働し、リーダーシップを発揮する能力を有する			
ヘルスケアシステムの変革に対応し、組織を管理運営できるマネジメント能力を有する			
地域や臨床現場が抱える、多様な看護実践上の課題解決に向けた研究能力を有する			
看護専門職を育てる教育的志向を有し、看護学の発展に寄与できる教育能力を有する			
授業計画 (回数)	該当する 到達目標	内容・事前/事後学習	担当者

授業計画 (回数)	該当する 到達目標	内容・事前/事後学習	担当者
実習の進め方		<p>第 段階は、治療管理を中心に実習し、ケアにおける臨床判断能力や実践力の基礎を修得する。</p> <p>実習内容と方法</p> <p>1) 患者の病態・診断・治療・フィジカルアセスメント・治療に伴う有害事象・症状マネジメントにおける薬剤調整・特徴的に見られる所見及び身体管理について、がん治療専門医から臨床講義を受けケアにおける専門知識を深める。</p> <p>2) がん看護に携わる認定看護師等の助言を受けて患者の身体面のアセスメントを適切に捉え実践力の基礎を培う。</p> <p>緩和医療に必要な臨床判断や身体管理</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>急性期、慢性期、エンドオブライフケア期にあり緩和ケアを必要とするがん患者の全人的痛み（身体症状、精神症状、疼痛等）に関する臨床判断とマネジメント</li> <li>緩和ケアの一環としての放射線療法に伴う有害事象の臨床判断と予防及び身体管理と治療</li> </ul> <p>がん薬物療法における臨床判断と身体管理</p> <p>外来化学療法室（調剤室を含む）において、がん薬物療法専門医やがん薬物療法認定薬剤師の指導のもとに、またがん化学療法看護認定看護師との助言や連携のもとに以下の臨床判断や実践力の基礎を身につける。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>抗がん剤投与のための血管確保に要する臨床判断の根拠と血管確保後の効果判定</li> <li>抗がん剤血管外漏出の予防や発現時の臨床判断と対応</li> <li>抗がん剤心血管系毒性の管理、臨床判断</li> <li>抗がん剤治療中の患者の免疫機能、感染兆候の臨床判断や血液像などによる臨床判断</li> <li>抗がん剤レジメン管理</li> <li>抗がん剤暴露対策</li> <li>抗がん剤使用中の患者・医療者の安全対策</li> <li>抗がん剤の内服治療管理、セルフマネジメントに向けた指導</li> <li>CVポート管理と指導</li> </ul> <p>まとめとして</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 患者・家族への治療選択支援のための臨床判断</li> <li>* 外来又は病棟における初発・再発患者への病名告知やIC等の情報伝達スキル</li> <li>* がん治療の評価（画像読影の知識、病理検査所見等）</li> </ul> <p>・実習時期と期間：1年次 後期 後半、2週間</p> <p>・実習時間：9：00-17：00（状況に応じて適宜対応する）</p> <p>・実習施設：地元で先駆的ながん治療を行っている総合病院 総合大雄会病院・大雄会クリニック</p> <p>・実習指導者： 福崎 美代子（がん化学療法看護認定看護師）                   鵜飼 聖子（がん放射線療法看護認定看護師）</p> <p>・実習方法・指導体制</p> <p>学生は事前の実習課題を明確にして、臨床実習指導者や指導教員に提</p>	安藤・下平・岩井
事前・事後学修		<p>事前：日々の実習目的目標を明確にし、実習に臨む（実習記録）。</p> <p>事後：実習目標の達成度を評価し、当該実習で実施したことに考察を加える。</p>	
評価方法		<ul style="list-style-type: none"> <li>最終レポート：自己の臨床判断能力及び実践力の現状と課題（30%）</li> <li>出席状況・実習記録（日々の実習日誌）（70%）</li> </ul> <p>・上記評価をもとに最終面接評価を行い、総合的に評価する。</p>	
課題に対するフィードバック			
教科書		なし	
参考書		その都度、紹介する。	
履修上の注意点及び取扱い		主体的な学習態度で臨むことを期待する。	



科目名	がん療養生活支援看護学実習		
科目コード	M2218	科目ナンバリング	
授業形態	実習	開講時期	2年前期
必修・選択	選択		
単位数	2単位	時間数	90時間
先修条件	フィジカルアセスメント・病態生理学特論・臨床薬理学特論・コンサルテーション論・がん療養生活支援看護学特論 - ・がん療養生活支援看護学実践論 - を履修し修得していること。		
教員名	安藤 詳子・下平 唯子・岩井 美世子		
実務経験	総合病院での看護師経験・がん看護専攻教育課程プログラム作成・指導の経験（安藤、下平）、がん看護専門看護師としての経験（岩井）から実習を通して専門看護師として必要な実践力を導く。		
オフィスアワー	随時メール対応可 安藤：s.ando.t@ikc.ac.jp 下平：y.shimodaira.t@ikc.ac.jp		
科目概要	がん患者と家族の疾病・療養上の問題に対して、入院ケアから在宅ケアまでエビデンスに基づく高度な専門的知識・技術・的確な臨床判断を用いて、ケアとキュアを融合した質の高い看護援助の実践および看護援助法の開発ができるような能力を段階的に身に付ける。		
到達目標	第 段階の実習は、経験豊かながん看護CNSが所属する病院において、医療チームによるキュアに関する知見を理解し、CNSから直接指導を受け6つの役割について学ぶ。加えて、院内における緩和デイケア・サロンの場を体験して、がんサバイバーへの支援について学ぶ。		
学位授与方針			対応
人間としての尊厳と権利を尊重した倫理観に基づき、看護学の幅広い知識と科学的根拠に裏付けされた看護を実践する能力を有する			
保健医療チームの一員として多職種と連携・協働し、リーダーシップを発揮する能力を有する			○
ヘルスケアシステムの変革に対応し、組織を管理運営できるマネジメント能力を有する			○
地域や臨床現場が抱える、多様な看護実践上の課題解決に向けた研究能力を有する			
看護専門職を育てる教育的志向を有し、看護学の発展に寄与できる教育能力を有する			
授業計画 (回数)	該当する 到達目標	内容・事前/事後学習	担当者

授業計画 (回数)	該当する到達目標	内容・事前/事後学習	担当者
実習の進め方		<p>第 段階は、経験豊かながん看護専門看護師の実践から直接に学ぶ。</p> <p>・実習内容と方法</p> <p>1) CNS指導のもと、その役割(実践・相談・調整・教育・倫理調整・研究)について見学・参画しながら、事例の経過を通して学習する。</p> <p>2) 緩和ケアチームのラウンドやカンファレンスに参加し、症状マネジメントにおける症状への対処や薬剤調整等の実際を知る。</p> <p>3) 院内の地域連携部署等において、がん患者と家族の療養生活を支援するための地域連携による実践場面について見学し、治療期から終末期まで提供される医療のあり方、在宅療養がん患者に対するシームレスな支援を提供するための多職種連携について学び、具体的に理解する。</p> <p>4) がんサバイバーシップを支える院内外の患者サロンに参加し、支援のあり方を学ぶ。</p> <p>・実習時期と期間：2年次 前期 前半、 2週間(病院1週間・緩和デイケアサロン1週間)</p> <p>・実習時間：9：00-17：00（状況に応じて適宜対応する）</p> <p>・実習病院：経験豊かな がん看護専門看護師が所属する施設</p> <p>1) 愛知県厚生農業協同組合連合会 江南厚生病院 2) 公立学校共済組合 東海中央病院</p> <p>・実習指導者</p> <p>祖父江 正代（がん看護専門看護師、江南厚生病院） 宇根底 亜希子（がん看護専門看護師、江南厚生病院） 澤井 美穂（がん看護専門看護師、東海中央病院） 住田 俊彦（がん看護専門看護師、東海中央病院） 平澤 宏卓（がん看護専門看護師、東海中央病院）</p> <p>・実習方法・指導體制</p> <p>学生は事前に実習課題を明確にして、臨床実習指導者や指導教員に提示する。臨床実習指導者や指導教員は、提示された実習内容が円滑に遂行できるように環境調整の上、指導する。</p> <p>実習期間中に中間・最終カンファレンスおよび学内の総括カンファレンスを実施し、臨床の指導者と教員による指導を受け、実習目標の達成度を評価する。</p> <p>段階ごとに緻密な実習記録を記し、次の実習に向けた自身の課題を見出す。</p> <p>・実習指導者と教員の連携</p> <p>実習目的等について事前に打ち合わせを行い、実習の既修状況や実習生のレディネス等について情報共有する。</p>	安藤・下平・岩井
事前・事後学修		<p>事前：日々の実習目的・目標を明確にし、実習に臨む（実習記録）。</p> <p>事後：実習目標の達成度を評価し、当該実習で実施したことに考察を加え、次の課題を明らかにする。</p>	
評価方法		<p>・事前レポート：がん看護学実習 における自己の課題</p> <p>・最終レポート：実際に見学・参画・実践したがん看護専門看護師の役割と機能について（30%）</p> <p>・出席状況・実習記録（日々の実習日誌）（70%）</p> <p>・上記評価をもとに最終面接評価を行い、総合的に評価する。</p>	
課題に対するフィードバック			
教科書		なし	
参考書		その都度、紹介する。	
履修上の注意点及び取扱い		主体的な学習態度で臨むことを期待する。	

科目名	がん療養生活支援看護学実習		
科目コード	M2219	科目ナンバリング	
授業形態	実習	開講時期	2年前期
必修・選択	選択		
単位数	4単位	時間数	180時間
先修条件	フィジカルアセスメント・病態生理学特論・臨床薬理学特論・コンサルテーション論・がん療養生活支援看護学特論 - ・がん療養生活支援看護学実践論 - を履修し修得していること。		
教員名	安藤 詳子・下平 唯子・岩井 美世子		
実務経験	総合病院での看護師経験・がん看護専攻教育課程プログラム作成・指導の経験（安藤、下平）、がん看護専門看護師としての経験（岩井）から実習を通して専門看護師として必要な実践力を導く。		
オフィスアワー	随時メール対応可 安藤：s.ando.t@ikc.ac.jp 下平：y.shimodaira.t@ikc.ac.jp		
科目概要	がん患者と家族の疾病・療養上の問題に対して、入院ケアから在宅ケアまでエビデンスに基づく高度な専門的知識・技術・的確な臨床判断を用いて、ケアとキュアを融合した質の高い看護援助の実践および看護援助法の開発ができるような能力を段階的に身に付ける。		
到達目標	第 段階は、がん医療を実施している地域の総合病院において、がん看護CNSとがん治療専門医の助言のもと、先進的ながん治療や治験等の実際を学び理解し、ケアとキュアに関する知見を深め、自らがCNSとしての6つの役割を担えるように実習する。		
学位授与方針			対応
人間としての尊厳と権利を尊重した倫理観に基づき、看護学の幅広い知識と科学的根拠に裏付けされた看護を実践する能力を有する			
保健医療チームの一員として多職種と連携・協働し、リーダーシップを発揮する能力を有する			○
ヘルスケアシステムの変革に対応し、組織を管理運営できるマネジメント能力を有する			○
地域や臨床現場が抱える、多様な看護実践上の課題解決に向けた研究能力を有する			
看護専門職を育てる教育的志向を有し、看護学の発展に寄与できる教育能力を有する			○
授業計画 (回数)	該当する 到達目標	内容・事前/事後学習	担当者

授業計画 (回数)	該当する到達目標	内容・事前/事後学習	担当者
1日目 ～ 20日目		<p>第 段階は自らがCNSとして6つの役割を担うように実習する。</p> <p>・実習内容と方法</p> <p>1)複雑ながん患者と家族の事例を受け持ち、担当の病棟看護師が実施している援助を理解し、実習で修得してきたがん看護援助とCNSの役割を統合して実践に加わり、がん看護に携わる看護師の相談に対応し、患者・家族や医療職間の関係調整や倫理的問題の調整に関わる。</p> <p>2)実習病棟看護師の学習ニーズを引き出し、学習テーマを設定してインサービス教育を準備し、病棟および院内に周知して企画し実施体験する。また、CNSによる臨床研究指導などの機会に接し、指導方法等について理解を深める。</p> <p>3)受け持ち患者に関する実習生の病態理解に対してがん治療専門医から指導を受け、診断・治療に伴う臨床判断を養う。また、チームカンファレンス等の場を活用し、がん専門薬剤師と治療の奏功と有害事象の実際を話し合い、理学・作業療法士や栄養士、MSW等も含め、現在の患者や家族のニーズを尊重したケアのあり方について討議し、より良い援助の方向を見出す。</p> <p>4)先進的ながん治療の現場を見学し療養環境や治療方法の実際を学ぶ。また、臨床研究開発部門において、がん治療専門医による治験の実際について見学し、がん患者に対する最先端高度医療の発展と可能性を学び、患者の治療選択に関する意思決定支援について考察を深める。</p> <p>5)がん患者の外来診療場面、退院調整会議場面、がん患者面談場面を見学し、緩和ケアの早期導入による患者の個性性を尊重した全人的ケアの提供について理解する。</p> <p>・実習時期と期間：2年次 前期 後半、4週間  ・実習時間：9：00-17：00（状況に応じて適宜対応する）  ・実習施設：経験豊かながん看護専門看護師が所属する施設  公立学校共済組合 東海中央病院</p> <p>・実習指導者  澤井 美穂（がん看護専門看護師）  住田 俊彦（がん看護専門看護師）  平澤 宏卓（がん看護専門看護師）</p> <p>・実習方法・指導体制：  学生は事前に実習課題を明確にして、臨床実習指導者や指導教員に提示する。臨床実習指導者や指導教員は、提示された実習内容が円滑に遂行できるように環境調整の上、指導する。  実習期間中に中間・最終カンファレンスおよび学内の総括カンファレンスを実施し、臨床の指導者と教員による指導を受け、実習目標の達成度を評価する。  段階ごとに緻密な実習記録を</p>	安藤・下平・岩井
事前・事後学修		<p>事前：日々の実習目的目標を明確にし、実習に臨む（実習記録）。</p> <p>事後：実習目標の達成度を評価し、当該実習で実施したことに考察を加え次の課題を明確にする。</p>	
評価方法		<p>・最終レポート：実践・相談・調整・教育・倫理調整・研究の計画と実施および成果について（30%）</p> <p>・出席状況・実習記録（日々の実習日誌）（70%）</p> <p>・上記評価をもとに最終面接評価を行い、総合的に評価する。</p>	
課題に対するフィードバック			
教科書		なし	
参考書		その都度、紹介する。	
履修上の注意点及び取扱い		主体的な学習態度で臨むことを期待する。	

科目名	がん療養生活支援看護学実習		
科目コード	M2220	科目ナンバリング	
授業形態	実習	開講時期	2年前期
必修・選択	選択		
単位数	2単位	時間数	90時間
先修条件			
教員名	安藤 詳子・下平 唯子・岩井 美世子		
実務経験	総合病院での看護師経験・がん看護専攻教育課程プログラム作成・指導の経験（安藤、下平）、がん看護専門看護師としての経験（岩井）から実習を通して専門看護師として必要な実践力を導く。		
オフィスアワー	随時メール対応可 安藤：s.ando.t@ikc.ac.jp 下平：y.shimodaira.t@ikc.ac.jp		
科目概要	がん患者と家族の疾病・療養上の問題に対して、入院ケアから在宅ケアまでエビデンスに基づく高度な専門的知識・技術・的確な臨床判断を用いて、ケアとキュアを融合した質の高い看護援助の実践および看護援助法の開発ができるような能力を段階的に身に付ける。		
到達目標	第 段階は、地域の訪問看護ステーションにおいて、かかりつけ医や訪問看護ステーション管理責任者、ケアマネジャーなどと関り地域連携の在り方や在宅療養しているがん患者・家族への支援について学ぶ。		
学位授与方針			対応
人間としての尊厳と権利を尊重した倫理観に基づき、看護学の幅広い知識と科学的根拠に裏付けされた看護を実践する能力を有する			
保健医療チームの一員として多職種と連携・協働し、リーダーシップを発揮する能力を有する			○
ヘルスケアシステムの変革に対応し、組織を管理運営できるマネジメント能力を有する			○
地域や臨床現場が抱える、多様な看護実践上の課題解決に向けた研究能力を有する			
看護専門職を育てる教育的志向を有し、看護学の発展に寄与できる教育能力を有する			○
授業計画 (回数)	該当する到達目標	内容・事前/事後学習	担当者
実習の進め方		<p>第 段階は、地域・在宅領域におけるCNSの実践能力を修得する。</p> <p>・実習内容</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1)訪問看護ステーションが開催する地元住民向けのイベントや相談会に積極的に関わり、地域特性の把握や在宅がん患者とその家族のニーズを把握する。</li> <li>2)訪問看護ステーション管理責任者の協力を得て、がん患者のケアプランに参画しながら同行訪問を行い、がん看護専門看護師の役割を理解する。</li> <li>3)事例を通して在宅におけるがん患者のニーズを把握し、QOLを高める実践を行い、役割の開発に努める。</li> <li>4)地域包括ケアサービスの特性を理解し、居宅支援におけるチーム医療について実践できる。</li> <li>5)在宅移行期から終末期支援までシームレスケアを提供するための専門職間連携アプローチと介護職を含む多職種連携について、具体的な実践に結びつける方略を身につける。</li> </ol> <p>・実習時期と期間：2年次 前期 後半、2週間</p> <p>・実習時間：9：00-17：00（状況に応じて適宜対応する）</p> <p>・実習施設：がん患者に対する在宅医療と訪問看護の連携を行っており、がん患者の在宅ケアに関する豊富な経験をもつ訪問看護ステーション</p> <p>・なないろ訪問看護ステーション（一宮市）</p> <p>・実習指導者：吉良 美幸（代表取締役、訪問看護ステーション管理責任者）</p> <p>・実習方法・体制：</p> <p>学生は事前に実習課題を明確にして、臨床実習指導者や指導教員に提示する。臨床実習指導者や指導教員は、提示された実習内容が円滑に遂行できるように環境調整の上、指導する。</p> <p>実習期間中に中間・最終カンファレンスおよび学内の総括カンファレンスを実施し、臨床の指導者と教員による指導を受け、実習目標の達成度を評価する。</p> <p>最終段階の実習記録を作成し、がん看護専門看護師による支援の実践を理解し、資格取得に向けた自身の課題を見出す。</p> <p>・実習指導者と教員の連携</p> <p>実習目的等について事前に打ち合わせを行い、実習の既修状況や実習生のレディネス等について情報共有する。</p>	安藤・下平・岩井

事前・事後学修	事前：日々の実習目的目標を明確にし、実習に臨む（実習記録） 事後：実習目標の達成度を評価し、当該実習で実施したことに考察を加え次の課題を明確にする。
評価方法	・最終レポート：実際に同行訪問した利用者の生活像把握と訪問看護師との連携について（30%） ・出席状況・実習記録（日々の実習日誌）（70%） ・上記評価をもとに最終面接評価を行い、総合的に評価する。
課題に対するフィードバック	
教科書	なし
参考書	その都度、紹介する。
履修上の注意点及び取扱い	主体的な学習態度で臨むことを期待する。

科目名	看護学特別研究		
科目コード	M3101	科目ナンバリング	
授業形態	演習	開講時期	1・2年通年
必修・選択	必修		
単位数	6単位	時間数	180時間
先修条件	看護研究法 ・ の履修		
教員名	安藤 詳子・大久保 清子・石井 成郎・榎原 久孝・藤本 悦子・下平 唯子・野村 千文・大谷 恵・鈴江 智恵・小倉 久美子・増永 悦子・小島 徳子		
実務経験	各領域で紹介する		
オフィスアワー	各領域で紹介する		
科目概要	各専門領域において、履修生自身が興味関心のある研究課題を見出し、主体的に文献検討、研究計画書および研究倫理審査書類作成等に取り組めるよう導き、研究の実施、修士論文作成、発表等への一連の研究指導を行う。		
到達目標	研究計画書・研究論文作成等を通して、研究の基礎的能力をみにつける。 論文作成過程や修士論文発表における応答性を獲得できる。 今後の研究における自己の課題について洞察できる。		
学位授与方針			対応
人間としての尊厳と権利を尊重した倫理観に基づき、看護学の幅広い知識と科学的根拠に裏付けされた看護を实践する能力を有する			○
保健医療チームの一員として多職種と連携・協働し、リーダーシップを発揮する能力を有する			
ヘルスケアシステムの変革に対応し、組織を管理運営できるマネジメント能力を有する			
地域や臨床現場が抱える、多様な看護実践上の課題解決に向けた研究能力を有する			
看護専門職を育てる教育的志向を有し、看護学の発展に寄与できる教育能力を有する			
授業計画 (回数)	該当する 到達目標	内容・事前/事後学習	担当者

授業計画 (回数)	該当する 到達目標	内容・事前/事後学習	担当者
		<p><b>【担当者別研究指導分野】</b></p> <p>安藤：慢性疾患と共に生活している人々、中でもがんサバイバーへの支援に関する研究および看護学生や医療職者への教育に関する研究指導を行う。</p> <p>大久保：地域創成に必要なケアシステムのマネジメント、および組織変革やリーダーシップに関する研究指導を行う。</p> <p>石井：看護におけるインストラクショナルデザイン、学習支援、教育・学習成果の評価やICTに関する研究指導を行う。</p> <p>榊原：地域住民の健康生活支援に関する疫学調査研究や地域の特徴を活かした地域包括ケアシステムの構築に関連した研究指導を行う。</p> <p>下平：がん患者・家族やクリティカル状況下にある患者・家族への支援に関する研究指導を行う。</p> <p>藤本：解剖生理学を基盤とし、様々な手法を用いた生体情報の分析を基に、看護技術に関する検証及びケア開発に向けた研究指導を行う。</p> <p>野村：高齢者及び認知症高齢者とその家族・介護者への地域におけるケアシステムの開発に向けた研究指導を行う。</p> <p>大谷：精神看護学教育・技術に関連した研究および地域で生活しメンタルヘルス支援を要する患者とその家族を対象とした実践的介入研究指導を行う。</p> <p>鈴江：看護マネジメントや看護師のキャリア発達支援に関する研究指導を行う。</p> <p>小倉：看護師や看護学生への学修支援に関する研究、およびクリティカルケア領域における研究指導を行う。</p> <p>増永：慢性疾患を有し地域で療養生活を送っている対象者と家族への療養生活支援に関する研究、がんサバイバーへの支援や看護学生の実践力等に関する研究指導を行う。</p> <p>小島：産褥期の環境と母乳分泌量の関連性に関する研究、周産期にある女性とその家族の支援に関する研究や助産学教育・実習に関連する研究指導を行う。</p> <p><b>【授業計画】</b></p> <p>1．研究計画書作成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・看護学特別研究に関するオリエンテーション（4月ガイダンス）</li> <li>・研究テーマの見極め</li> <li>・文献検索・検討</li> <li>・研究計画書の作成</li> <li>・研究遂行可能性の検討</li> <li>・研究計画の仮提出</li> <li>・研究計画発表</li> <li>・研究計画書提出</li> <li>・研究倫理審査受審</li> </ul> <p>2．研究計画に沿って研究を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・調査・データ収集</li> <li>・解析・分析</li> <li>・文献検討</li> <li>・研究論文の作成</li> <li>・研究論文審査</li> <li>・最終試験</li> <li>・最終論文の提出</li> <li>・研究論文の公開発表会</li> </ul> <p><b>【授業方法】</b> ゼミナール形式</p>	全員
事前・事後学修			
評価方法		学位論文審査委員会による「学位論文審査」による。 評価基準は、「学位論文審査委員会規程」別紙1を参照	
課題に対する フィードバック			
教科書		特になし、必要時紹介する。	
参考書		参考資料は、適宜配付する。	
履修上の注意 点及び取扱い		院生仲間と協働し、主体的に進めること	